

千葉醫學專門學校教授醫學博士
三輪德寬先生校閱
千葉醫學專門學校醫學士
內田實君著



26

48

發行所
多田屋書店

一般救急法

目次

一、葡萄酒	二	十一、イヒチオール軟膏	六
二、カンフル錠	三	十二、コロジウム	七
三、芥子	三	十三、石炭酸水	七
四、健胃散	四	十四、硼酸水	七
五、重炭酸ナトリウム	四	十五、検温器	七
六、硼酸	五	十六、銕	九
七、アンモニア水	五	十七、ピンセット	九
八、グリセリン	五	十八、匙	九
九、薄荷	六	十九、膏藥篋	九
十、硼酸軟膏	六	二十、コップ	九

44 9 16

二十一、スポイト	一〇	二十八、脱脂綿	二二
二十二、氷嚢	一〇	二十九、昇汞ガーゼ	二二
二十三、ゴム管	一〇	三十、繃帶	二二
二十四、イルリガートル	一〇	三十一、薄油紙	一四
二十五、膿盆	一一	三十二、絆創膏	一四
二十六、安全針	一一	三十三、三角巾	一五
二十七、ガーゼ	一一		

一、卒倒	一六	五、急痲	二二
二、卒中	一七	六、假死	二二
三、癲癇	一九	人工呼吸法	二六
四、日射病	二〇	七、泥酔	二八

八、高熱	二九	二十、異物	四〇
九、頭痛	三〇	二十一、火傷	四二
十、胃痛併ニ腸痛	三一	二十二、凍傷	四四
十一、神經痛	三二	二十三、創傷	四六
十二、齒痛	三三	止血法	四九
十三、鼻出血	三三	二十四、關節捻挫	五六
十四、咯血	三三	二十五、脱臼	五七
十五、吐血	三四	二十六、骨折	五八
十六、食傷(急性胃加答兒)	三五		
十七、下痢(急性腸加答兒)	三六		
十八、中毒	三七		
十九、昆虫刺傷	三九		

一般救急法

一般ノ家庭ニ於テ、又ハ學校、工場等ニ於テ、不意ニ身体ノ異常ヲ起シ、又ハ怪我ヲシタル場合ニハ、直チニ醫師ヲ迎ヘテ處置ヲ乞フコトハ勿論デアルガ、其事變ガ急デアツテ、醫師ノ來ルマデ其儘ニシテ置クコトガ出來ヌトカ、又ハ山間僻地デ、醫師ヲ迎ヘルニ長時間ヲ要スル場合ニハ、兎ニ角醫師ノ來ルマデ、應急ノ處置ヲスルコトヲ知ツテ置カネバナラヌ。又醫師ガ來ルニシテモ、家人ガ適當ノ處置ヲ取ルコトヲ知ラヌ爲メニ、手遅レトナツテ策ノ施シ様ノナイト云フ不幸ニ遭遇スルコトモ屢々アル例ヘバ、切リ傷^キカラ血ノ出ルノヲ放置シタ爲メニ、醫師ノ來タ時ニハ既ニ失血ノ爲メニ事切レテ居ル様ナ場合モナイトハ限ラヌ。其レ故ニ一般ノ家庭ハ勿論、多クノ兒童ヲ預ツテ居ル學校、職工ノ多ク居ル工場、船醫ノナキ船舶、其他旅館、劇場、寄席ナドニ

平素其レニ必要ナル材料ヲ準備シ、且ツ之レガ使用法ヲ辨ヘテ居ル
キニハ、急時ノ事變ニ際シテ、醫師ノ來ルマデ兎ニ角一通リノ處置ヲ
スルコトガ出來テ、醫師ヲシテ其術ヲ施ス上ニ、多少ノ便宜ヲ得シム
ルコトガ出來タナラバ、其ノ幸福ハ甚ダ大ナルモノテアラウト思フ。
余ハ平素此ノ事ヲ念頭ニ架ケテ居ツタガ、何トカシテ斯ル際ニ應ズ
ルタメニ、簡便ナ器具ト藥品トヲ供給シヤウト云フ考カラ、此ノ救急
箱ヲ考案シタ次第デアル。救急箱ニハ、一通リ素人ノ使用シ得ル藥品
ト材料トヲ包括シタルモ、此ノ使用法ト一般ニ尤モ起リ易キ疾病ト
ヲ知ルコトハ、尤モ必要ト思ハレル故ニ、器具ノ大体ノ説明ト、尤モ普
通ニ起リ易キ疾病ノ病狀ト、之レガ處置法トヲ略述シ様ト思フ。

救急箱ノ内容及使用法

一、葡萄酒(赤酒トモ云フ)

與奮ノ目的ニ用ヒルモノデ、卒倒、出血、假死等ノ際ニ、茶呑茶碗ニ半分
位ヲ一回ニ用ヒル。(小兒ニハ年齢ニ準ジテ斟酌スル)此ノ際少量ノ
砂糖ト水トヲ加ヘルモ妨ゲハナイ。

二、カンフル錠

與奮ノ目的ニ用ヒルモノデ、葡萄酒ニ比ブレバ強イ。卒倒、出血、日射病
等ニ一錠乃至二錠ヲ用ヒル。

三、芥子

刺戟、與奮ノ目的ニ用ヒ、又鎮痛ノ作用ヲ有スルモノデ、多クハ其儘ニ
用ヒルコトハナク芥子泥トシテ用ヒル。

芥子泥ヲ用ヒルニハ、先ツ芥子ヲ茶碗カ「コツブ」ニ入レ、之レニ適當ノ
水ヲ注ギ、箸デ泥狀ニナル迄攪拌シ、芥子ヲ用ヒヤウトスル部分ニハ
半紙ヲ敷キ、其上ニ芥子ヲ擴ゲル。(此際芥子ヲ直接ニ皮膚ニ附ケル

四
片ハ、後ニ芥子ヲ除キ去ルニ當ツテ、芥子ハ皮膚ニ固着シテ拭ヒ去リ難ク、往々水泡ヲ形成シテ患者ヲ苦メルソウシテ周圍ニ散亂シナイ様ニ上カラ紙ヲ被フ。斯クシテ二十分位ヲ經レバ、其部分ノ皮膚ガ赤クナツテ患者ハ痛ヲ覺エル。其時ニ豫メ敷イタ紙ト共ニ除キ去ルノデアアル。

四、健胃散

胃痛食傷ナドノ際ニ匙位ヲ用ヒル、(匙ハ此ノ救急箱ノ中ニアルモノヲ用ヒル。小兒ニハ年齢ニ應シテ加減スル。例へバ、十歳ノ小兒ハ一匙トスル。)

五、重碳酸ナトリウム(重曹)

胃加答兒、嘔吐、酸類ノ誤嚥ニ用ヒル。又含嗽劑トシテ用ヒルコトガアル。之レニハ一匁ヲ一合ノ水ニ溶シテ用ヒル。

六、硼酸

洗滌劑又ハ含嗽劑トシテ用ヒル。共ニ一匁ヲ一合ノ湯ニ溶カシテ用ヒル。(之レハ湯ニハ溶ケ易イガ水ニハ溶ケヌ)。

七、アンモニア水

昆虫刺傷ニ毒物ヲ中和スル爲メニ、局部ニ塗ツタリ又ハ失神者ニ神經ヲ刺戟スル目的ヲ嗅ガシメル。

八、グリセリン

灌腸用トシテ用ヒル。此ノ際、原料其儘ヨリモ、等分ノ温湯ト混ゼレバ取扱ガ便利デ、且ツ腹痛ヲ覺エルコトガ少イ。

灌腸ヲスルニハ、先ヅ茶呑茶碗ニ三分一許ノ「グリセリン」ヲ入レ、之レニ同量ノ温湯ヲ加ヘ、「スポイト」ニ吸ヒ込マシメ、患者ハ側臥位ニテモ仰臥位ニテモ宜シイ。術者ハ肛門ノ周圍ニ「グリセリン」ヲ塗り、次イ

デ「スポイト」ノ先端ヲ徐々ニ肛門内ニ入レ「スポイト」ノ内容ヲ腸内ニ送り込シダナラ「スポイト」ヲ抜キトリ、肛門ニハ少許ノ綿ヲ當テ、之レヲ押へ、患者ニ便意ヲ耐へサセルコト十分位デ便所へ行カセラルカ。又ハ便器ヲ用ヒシメル。此際快キ通ジヲ得ナケレバ尙一回行フ、モ差支ナイ。

九、薄 荷

刺戟藥トシテ用ヒ、又清涼劑トシテ用ヒル。時トシテ鎮吐ノ目的ニ用ヒル。

十、硼酸軟膏

損傷シタ皮膚ヲ保護スル目的ニ用ヒラレル。例へバ、軽度ノ火傷、擦過傷、靴ズレ、淺イ切創ニ用ヒル。又顔面ノ濕疹ニ用ヒル。

十一、イヒチオール軟膏

鎮痛消炎ノ目的ニ用ヒル。打撲、捻挫、其他腫脹テ居ル部分ニ塗ル。其應用ハ甚ダ廣イカラ、後ニ述ベル病變ノ條下ニ就イテ見ラレタイ。

十二、「コロジウム」

少サイ創傷ニハ、單ニコロジウムヲ塗ツテ、外部カラ有毒物ノ侵入スルノヲ防グ。

十三、石炭酸水

洗滌用トシテ用ヒ、又消毒ノ目的ニ用ヒル。

十四、硼酸水

洗滌用又ハ念嗽用トシテ用ヒル。

十五、檢温器

體温ヲ測ルニ用ヒル。體温ハ健康ノ人ニハ寒暑ノ爲メニ殆ンド變ルコトナク、常ニ大約攝氏三十六度四分カラ三十七度位ノ間デ、朝ト夕

トデハ多少ノ高低ハアルケレモ、其差ガ一度ヲ踰エルコトガナイ。即チ夕方ニハ高クナツテ、朝ニハ低イ。然シ体内ニ異状ノアル片ニハ甚ダシク上昇シ、又ハ下降スルコトガアル。夫レ故、患者ニ接シタ片ニハ先ヅ体温ヲ測ツテ醫師ノ診断ヤ、治療ヲ定ムル上ノ資ケトナサネバナラス。

体温ヲ計ルニハ通常寒暖計ヲ用ヒル。而シテ体温ヲ計ルニハ、殊更三十四、五度カラ四十三、四度ヲ度目ヲ刻ミ其上一度ヲ十等分シタモノデ、現今用ヒルモノハ、中ノ水銀ガ一旦昇レバーツ處ニ止ツテ降ラナイモノデアアル。体温ヲ計ルノニハ通例腋窩ワキノシタニスル。先ヅ病人ノ腋窩ノシタヲ拭ヒ乾カシ、檢温器ヲ深ク腋窩ニ挿ミ入レ、此際先端ガ後ノ方ヘ脱ケ出サヌ様注意セネバナラス。次ニ腕ウデヲ垂レ肘ヒジヲ曲ゲテ胸ニ壓シ着ケ脱ケ落ちヌ様ニシ、大約十五分檢温器ノ種類ニヨリテハ五

分デモヨイノ後、抜キ取リテ度目ヲ検査スルノデアアル。体温ヲ測ルニハ、通常朝(六―七時)夕(四―五時)二回ダガ、病症ニヨツテハ數回測ル必要ガアル。又不意ニ体温ノ昇ツタ場合ニハ臨時ニ測ツテ置クガヨイ。

十六、 鍍

十七、 ビンセツト

之レ等ハ隨時ニ用ヒル。

十八、 匙

藥ヲ救ヒ出スニ用ヒル。又後端ハ耳搔キニ代用スル。

十九、 膏藥カウ 藥ヤク 籠ヘラ

膏藥ヲ患部ニ塗り、又ハ布片ニ擴ゲルニ用ヒル。

二十、 コツブ

藥ヲ飲マセルニ用ヒ、又時ニヨリ、藥ヲ浴カシ、或ハ藥ヲ入レルニ用ヒル。

二十一、スポイト

小ナル場所ヲ洗フニ用ヒル。又之レヲ灌腸ニ用ヒル。(然シ灌腸ニ用ヒタキニハ、先キヲ石炭酸水ノ中ニ數時間浸シタ後、克ク洗ツテ置カネバナラス。)

二十二、氷 嚢

氷カ水ヲ入レテ患部ヲ冷スニ用ヒル。

二十三、ゴム 管(嘴管、ゴム管挾ミ付キ)

イルリガートルニ附ケテ洗滌用トシ、又ハ之レヲ單獨ニテ止血ノ目的ニ手足ヲ緊縛スルニ用ヒル。(後篇止血法ノ條參照)

二十四、イルリガートル

本器ニ納ムル所ノイルリガートルハ其形異様ナルモ、場所ヲ取ラヌコトト、此ノ中ニ種々ノ器具ヲ包藏スル爲メデアアル。ゴム管ヲ下部ニ突出シタ管ニ箆メ、内ニ入用ノ藥ヲ入レ洗滌ニ用ヒルノデ、柱ナドニ架ケル爲メニ上端ニ孔ヲ明ケタノデアアル。

二十五、膿 盆

膿盆モ普通ノモノトハ餘程形ガ違ツテ居ルガ、此レハ箱ニ入レルノニ場所ヲ取ラヌ爲メデアアル。用途ハ洗滌液ヲ受ケ、又ハ汚物ヲ入レルニ用ヒル。

二十六、安 全 針

繃帶ヤ三角巾ヲ固定スルニ用ヒル。

二十七、ガ ー ゼ

創傷部ニ繃帶スル場合ニ、傷部ヲ被包スルニ用ヒ、或ハ出血部ヲ栓塞

スルニ用ヒル。

二十八、脱脂綿

「ガーゼ」下同ジ様ナ目的ニ用ヒル。

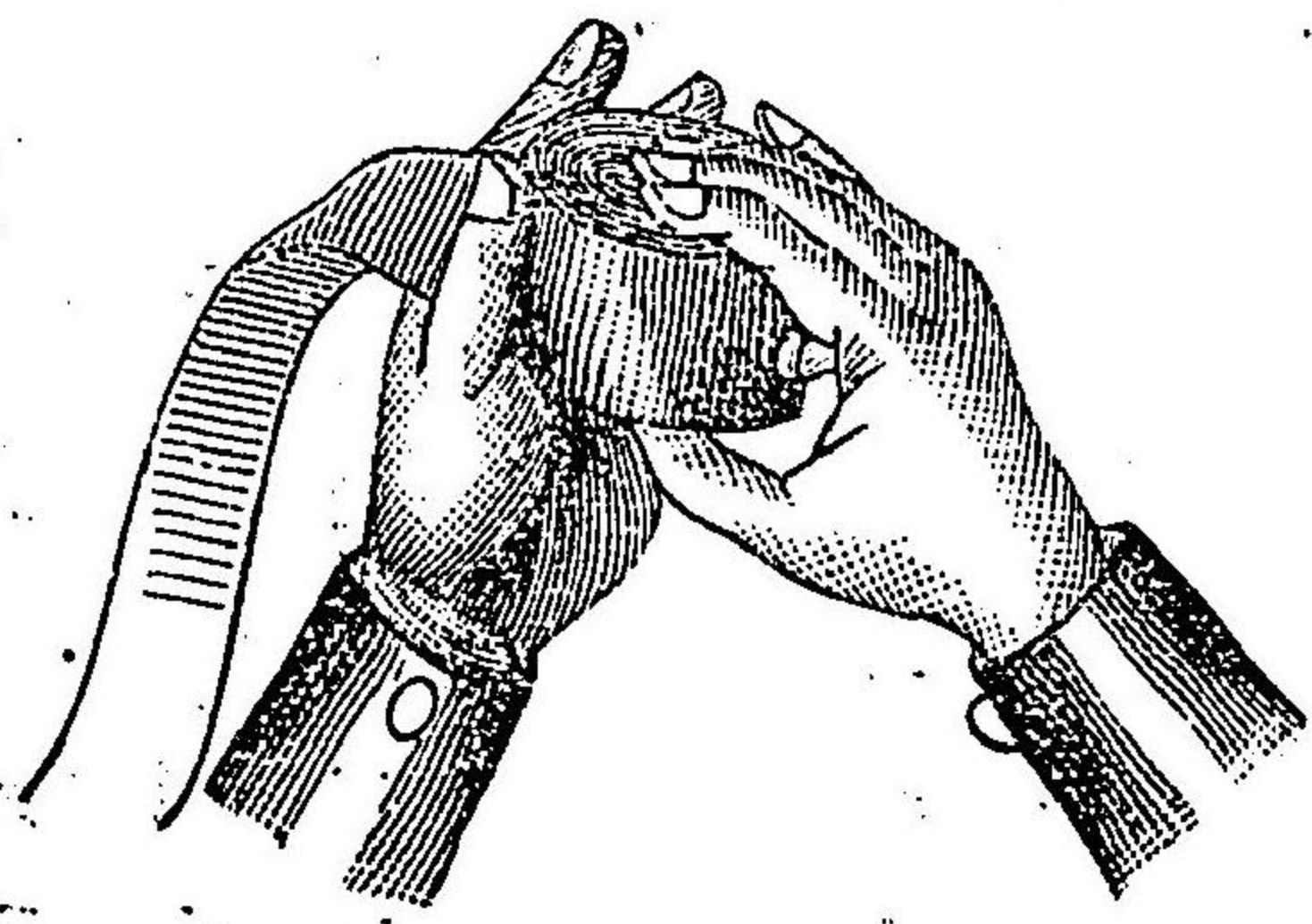
二十九、昇汞ガーゼ

創傷部ニ當テ、毒物ノ侵入ヲ防ギ、又壓迫、
繃ヲ施ス場合ニ用ヒル之レヲ取扱フニハ手、
指ヲ清シ、石炭酸水デ充分ニ洗ヒ、其手指ヲ、
他物ニ觸レザル様注意セネバナラス。

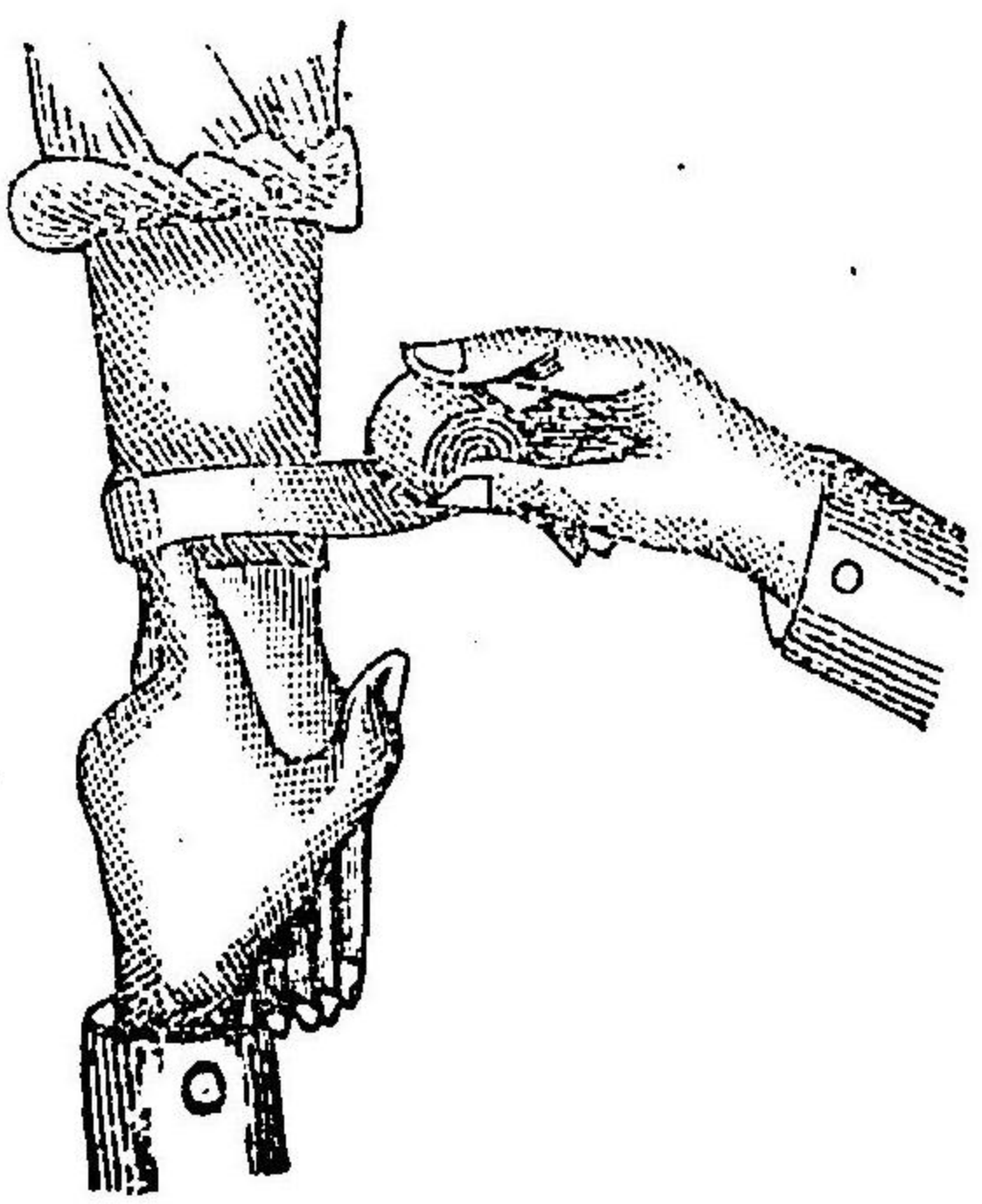
三十、繃帶

繃帶ヲ造ルニハ地質ノ荒イ晒布ヲ取り、兩端
ノ耳ヲ去リ、所要ノ廣サニ裂キ分ケル。而シテ
之レヲ卷クニハ、先ヅ其一端ヲ數回疊ミ折ツ

第一圖



テ堅イ圓軸ヲ造リ、右手ノ拇指ト示指トノ間ニ縦ニ摺ミ、圓軸ニ連ル
布ヲ左手ノ拇指ト示指トノ間ニ挟ミ、右手ニテ圓軸ヲ廻轉スルニ從
ツテ、布片ヲ左ノ手ノ指ノ間ヲ滑ラセテ漸次ニ卷イテユクノデア
ル。繃帶ヲ卷クニハ、地上又ハ床上ニ置ク
ニハ、泥土又ハ塵埃ニ汚サレル憂ガアル
爲ニ、必ラズ清ラカナ机ノ上デスルカ、又
ハ自分ノ肩ニ懸ケテスルモノデア
ル。繃帶ヲ施スニハ、右手デ繃帶ノ軸ヲ縦ニ摺ミ、
拇指ト示指トノ間ニ摺ミ、左手デ先
キヲ解キ、外面ヲ卷カウトスル部分ニ當テ、二三回一ツ所ヲ卷イテ
充分ニ回定シ、夫レカラ繃帶ノ軸ヲ稍斜ニ上方ニ向ケテ、漸次ニ卷キ
附ケナガラ患部ヲ全ク被包シ、其先キハ二ツニ裂イテ結ブカ、又ハ安



全針ヲ用ヒテ留メルカスルノデアアル。
繃帶ノ効用ハ

一四

- 一、外傷ヲ受ケタ部分ヲ包ンデ、汚イ物ヤ、病毒ノ侵入スルノヲ防グ。
- 二、外用藥ヲ患部ニ用ヒルニ當ツテ、其落チルノヲ防グ。
- 三、創傷ヲ壓迫シテ止血セシメル。
- 四、骨傷又ハ脱臼ノ整復後、其部ヲ固定スル。

三十一、薄油紙

藥ヲ塗ツタ上ヲ被ヒ、又ハ昇汞ガーゼナドデ、傷ヲ被包シタ上ニ當テ、液汁ノ流レ出ルノヲ防グ。

三十二、絆創膏

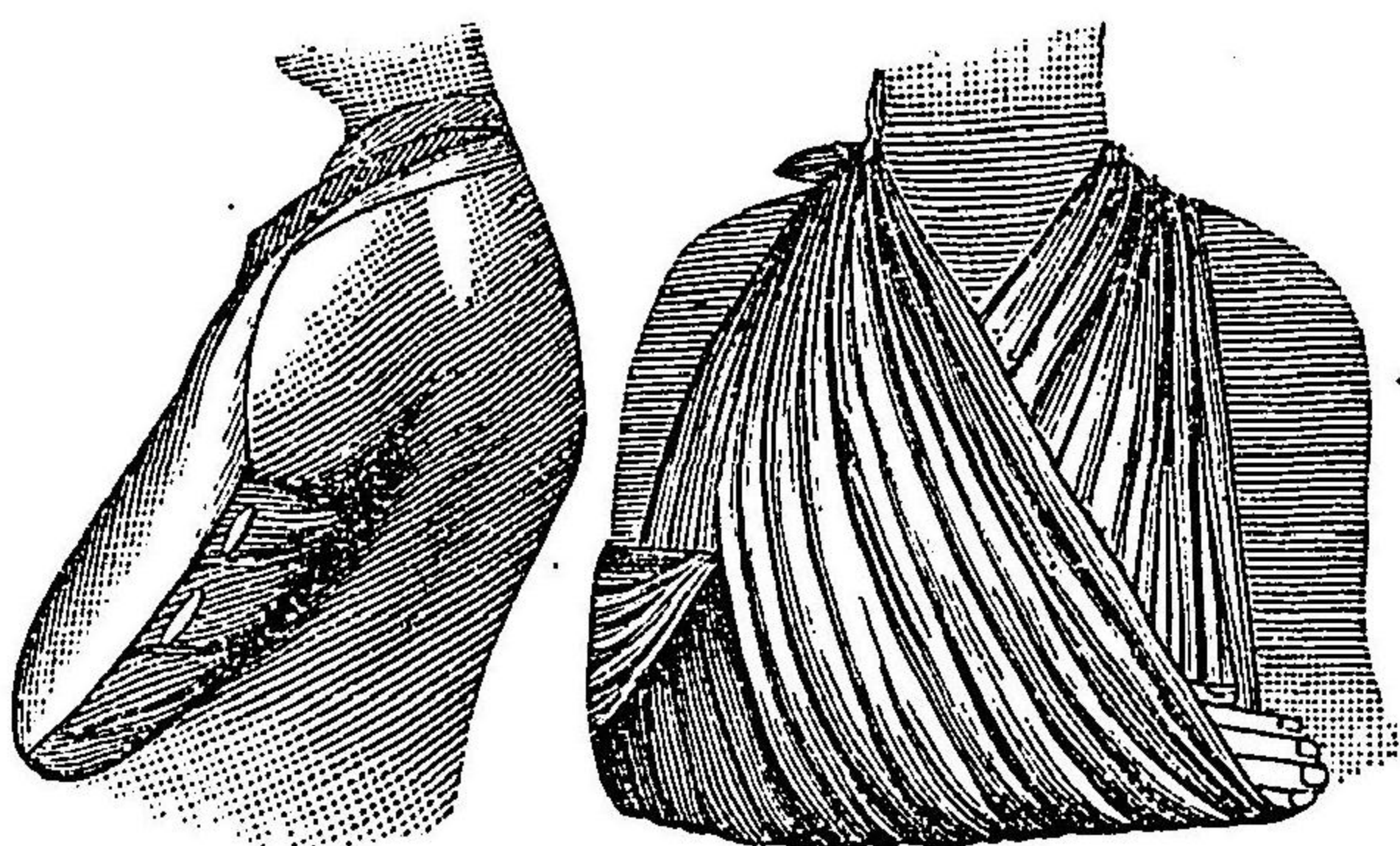
小サイ傷ニハ只之レ丈ケヲ貼ツテモ宜シイ。又所ニヨツテ繃帶ヲ用ヒナイデ、絆創膏ノミデ固定スルコトガ出來ル。又繃帶シテモ動キ易

イ所ニハ、絆創膏ヲ固定シタ上ニ繃帶ヲスルガヨイ。

三十三、三角力

之レハ諸種ノ繃帶ニ代用スル。

第三圖



救急處置

一六

第一 卒倒

卒倒ハ心臟ノ衰弱又ハ腦貧血カラ發スルモノデ、患者ハ氣絶シ、顔色ハ蒼白トナリ、冷汗ビキアセヲ流シ、脈搏ハ極メテ小サイカ、又ハ全ク觸レルコトガ出來ヌ。呼ンデモ返事ヲシナイ。眼瞼マブタヲ開イテ見ルト、瞳孔ハ擴ガツテ居リ、(瞳孔トハ俗ニひとみト云フモノデ、明ルケレバ小サク、暗ケレバ大キクナル。光線ノ強弱ニヨリテ變化ガナクナル。而シテ卒倒ハ如何ナル場合ニ起ルカト云フニ、物ニ驚イタ時、例ヘバ、大手術ナドヲ見タ時、恐怖オッレノ念ヲ持チナガラ自分ガ手術ヲ受ケタ時、非常ナ痛ミヲ感ジタ時、不良ノ空氣ヲ呼吸シタ時、(多人數集合シタル室ニテ)大出血ヲ起シタル時、衰弱シタル病人ガ急ニ起キ上リ、又ハ烈シイ下痢ノアツタ場合ニ、急ニ起キ上ツタ様ナ時ニ起ルモノデアアル。殊ニ心臟病シンザウビヤウ

ニ罹ツテ居ル人、神經質ノ人ニハ、罹リ易イカラ、氣ノ弱イ人ナドハ手術ナドヲ見ヌ様ニシ、又多人數集ル所ナドニハ長ク居ラヌ様ニスルガ良イ。

處置 卒倒ヲ起シタ際ニハ、頭ノ方ヲ少シク低クシ、襟卷ヲ外シ、帶ヲ解キ、洋服ヤ「シャツ」ノ鈕ヲ外シテ呼吸ヲ安ラカニシ、輕症ノモノナラバ顔又ハ胸ニ冷水ヲ吹キ掛ケルカ、又ハ冷水ヲ手拭ニ浸シテ顔ヤ心臟部(左ノ乳ノ處)ニ置ケバ氣ガ附クガ、重症ノモノニハ心臟部ニ芥子泥(芥子ノ造リ方及ビ用ヒ方ハ、救急箱内容芥子ノ條ニアル)ヲ貼ルトカ、アンモニアアヲ嗅ガセルトカスル。而シテ患者ガ氣ガ附イタラ葡萄酒ヲ飲マセ、又ハ「カンフル」錠ノ一二箇モ與ヘル。又此際患者ガ嘔氣ハキケヲ催シタ時ニハ、頭ヲ側方ニ傾ケテ吐物ノ氣管ニ入ラヌ様ニ注意スル。

第二 卒中

一七

卒中モ亦突然ニ起ルモノデ、入浴中、又ハ圍碁、將碁ナドニ熱中シテ居ル片、又ハ酒ニ甚シク酔ツテ場合ナドニ起ルガ、又全ク不意ニ起ルコトガアル。此ノ病症ハ、腦ニアル血管ノ破裂ニヨツテ血管カラ溢レ出シタ血液ガ、近隣ノ腦髓ヲ壓迫スル爲メニ起ルノデアアル、平素酒ヲ多量ニ用ヒル人、又ハ梅毒ニ罹ツテ居ル人ナドハ、共ニ血管ノ質ガ脆クナツテ居ル爲メニ、此ノ症ニ罹リ易イガ、又酒客、梅毒患者ナドデナクテモ、老人ニナレバ誰デモ多少血管ガ脆クナル傾キガアルカラ、コノ病ニ罹リ易イノデアアル。此ノ症ヲ起ス前ニハ、頭痛ガスルトカ、頭ガ重イトカ云フ前徴ノアルコトガアル。又ハ少シモ變ツタ事ガナク、突然ニ起ルコトモアル。卒中ヲ起シタ場合ニハ患者ハ突然ニ仆レ、高聲タカイヒキデ何モ知ラズニ寢込ミ、顔ノ色ハ赤ク、脈ハ強ク大クシテ數ハ少イ。多クノ場合ニハ體ノ半側ガキカヌ。又同時ニ顔モ半面丈ケ弛緩シテ健康

側ニ引カレル此ノ顔ノ麻痺キカヌハ手足ノ麻痺キカヌト同ジ側ノコトガアル。又反對ノ側ナ事モアル。之レハ腦ニ起ツタ出血ノ部位ノ如何ニ關係スルノデアアル。此ノ症ハ間モナク自然ニ醒メルノモアルガ、大抵ハ重症デ幾日モ其儘デアツテ、久シク床ヲ離レル事ノ出來ヌモノガアル。カ、ル場合ニハ精神ハ明亮トナルケレドモ、手足ノ麻痺キカヌガ殘ルコトガ多イ。又一二日ニシテ死ヌモノ、或ハ直グニ死ヌモノモアル。處置 頭ヲ高クシテ氷デ充分ニ頭ヲ冷シ、出來ルナラバ灌腸クワンチャウヲシテ便ヲ出ダス。此レハ頭ノ血ヲ下ノ方ニ誘導スル目的デアツテ、多クノ場合ニ大ナル効ガアル。然シ卒中ハ卒倒ナドニ比ブレバ、重症デ且ツ危檢ナ病氣デアルカラ、只一時ノ手當ニ止メテ、成ルベク早ク醫師ノ治療ヲ乞フベキコトハ勿論ノコトデアアル。

此レハ一種特別ノ病氣、デ患者ハ急ニ仆レテ、強イ痙攣ヲ起シ、口角ヨリ泡沫ヲ出シ、人事不省トナル。瞳孔ハ初メニ縮ミ、後ニハ擴ク、明暗ニ對シテ反應ガナイ。而シテ多クハ自然ニ醒メテ別ニ手當ハ要ラヌ。然シ此ノ際舌ヲ嚙ムコトガ多イカラ、コルクカ、軟イ木片ナドヲ齒ノ間ニ挟ムコトガ必要デアル。

第四 日射病

夏ノ炎天デ勞働シ、又ハ旅行ヤ、行軍ヲナス際ニ汗ノ出ルコトガ妨ゲラレタキニ起ル。故ニ學校生徒ノ体操ノ際、又ハ兵士ガ密集シタ隊形デ行軍スルキニ起リ易イ。此ノ病ニ罹レバ、口渴、眩暈、耳鳴、胸ヲ押ヘ付ケラレル様ナ感ジヲ起シ、身体ガダン／＼倦怠ナツテ遂ニ仆レル。脈ハ頗ル細クテ、顔ノ色ハ赤ク、眼球ハ凝リ、呼吸ハ淺ク小サイ。豫防法 日光ノ直射ヲ避ケ、衣服ノ色ハ日光ヲ吸收シ難イ爲メニ白

色ノモヲ用ヒ、空氣ノ流通ノ良イ様ニ裁縫スルガヨイ。頭ニハ帽子ヲ用ヒ、發汗ヲ良クスル爲メニ多量ノ飲料ヲ用ヒル。處置 患者ハ涼シイ所ニ移シ、衣服ヲ解キ、頭ト胸トニ冷水ヲ灌ケ、又ハ氷嚢ヲ當テ、アンモニアヲ嗅カセ、灌腸ヲスル。心臟部ニハ芥子泥ヲ貼ル。尙重症デ此等ノ處置デ効ヲ奏シナイモノハ、成ルベク早ク醫師ノ治療ヲ乞ハネバナラヌ。

第五 急 痲(子痲)

此ノ症ハ多クノ急性、又ハ慢性ノ中毒ニヨリテ起ルモノデ、尿毒症、又ハ鉛毒ニヨリテ起ル。又妊娠中、分娩時、時トシテ産褥時ニ起ルコトガアル。殊ニ小兒ニ肺炎、麻疹等ノ急性熱發、消化不良、蛔蟲、又ハ齒牙ノ發生ニヨル熱發ニ際シテ起ル。之レハ大腦内ノ反射制止裝置ノ發育不完全ナル爲メニ起ルノデアアル。茲ニハ吾々ノ日常尤モ多ク遭遇スル

ハ瞳孔ノ反應ハ消失スル許リデナク、角膜(素人ノ云フ黒身)ハ軟カニナリ、且ツ光澤ガナクナル。然シ眞死ト假死トハ充分ノ熟練ガナケレバ往々間違ヒ易イカラ注意セネバナラヌ。

處置 其原因ニヨリテ差異ガアル。

瓦斯中毒 ノ場合ニハ、救助者ハ患者ノ居ル室へ直チニ入ツテハナラヌ。先ヅ窓ヲ明ケテ室内ノ瓦斯ヲ外へ追ヒ出スコトガ尤モ必要デアル。第二ニハ燈火ヲ持ツテ入ツテハナラヌ。出來得ルナラバ懷中電燈ナドヲ用ヒルカ良イ。若シカ、ル便利ノモノガナカツタラ、暗イ中ニ手探リデ入ツテ患者ヲ救ヒ出シ、次ニ述ベル人工呼吸ヲ行フ、又古井戸ナドへ入ツテ悪イ瓦斯ノ爲メニ窒息シテ居ルモノヲ救フニハ中へ入ル人ハ、口ノ周圍ニ酢カ石灰水ヲ浸シタ手拭ヲ結び付ケ、二本ノ繩ヲ用意シ、一本ヲ自分ノ体ニ縛リ、一本ハ患者ヲ縛ル用ニ供スル

若シ中ニ入ツテ不意ニ呼吸ガ苦シクナツタ時ニハ、自分ヲ縛ツテ居ル繩ヲ引イテ合圖ヲシテ引キ出シテ貰フ。又首尾克ク患者ヲ見當テタ時ニハ用意シタ繩デ患者ヲ縛ツテ合圖ヲスルコトガ出來ル。而シテ患者ヲ引キ上ゲタラ人工呼吸ヲ行フ。

溺水者 デアツタ場合ニハ、衣服ヲ脱ガセ、口ノ中ニ泥ナドノアツタラバ克ク取り去リ、腹ヲ高クシテ、頭ト胸トヲ少シク低クシ、顔ハ横向キニシテ、脇腹ヲ輕ク壓ス。次イテ患者ノ位置ヲ直シテ人工呼吸ヲ行フ人工呼吸ヲヤツテ呼吸ヲ始メタナラバ、身体ヲ毛布ノ様ナモノデ包ミ、手足ヲ下ノ方カラ上ノ方へ摩ル。正氣附イタラ葡萄酒ヲ飲マセ温メテアル床ノ中ニ靜カニ臥カス。

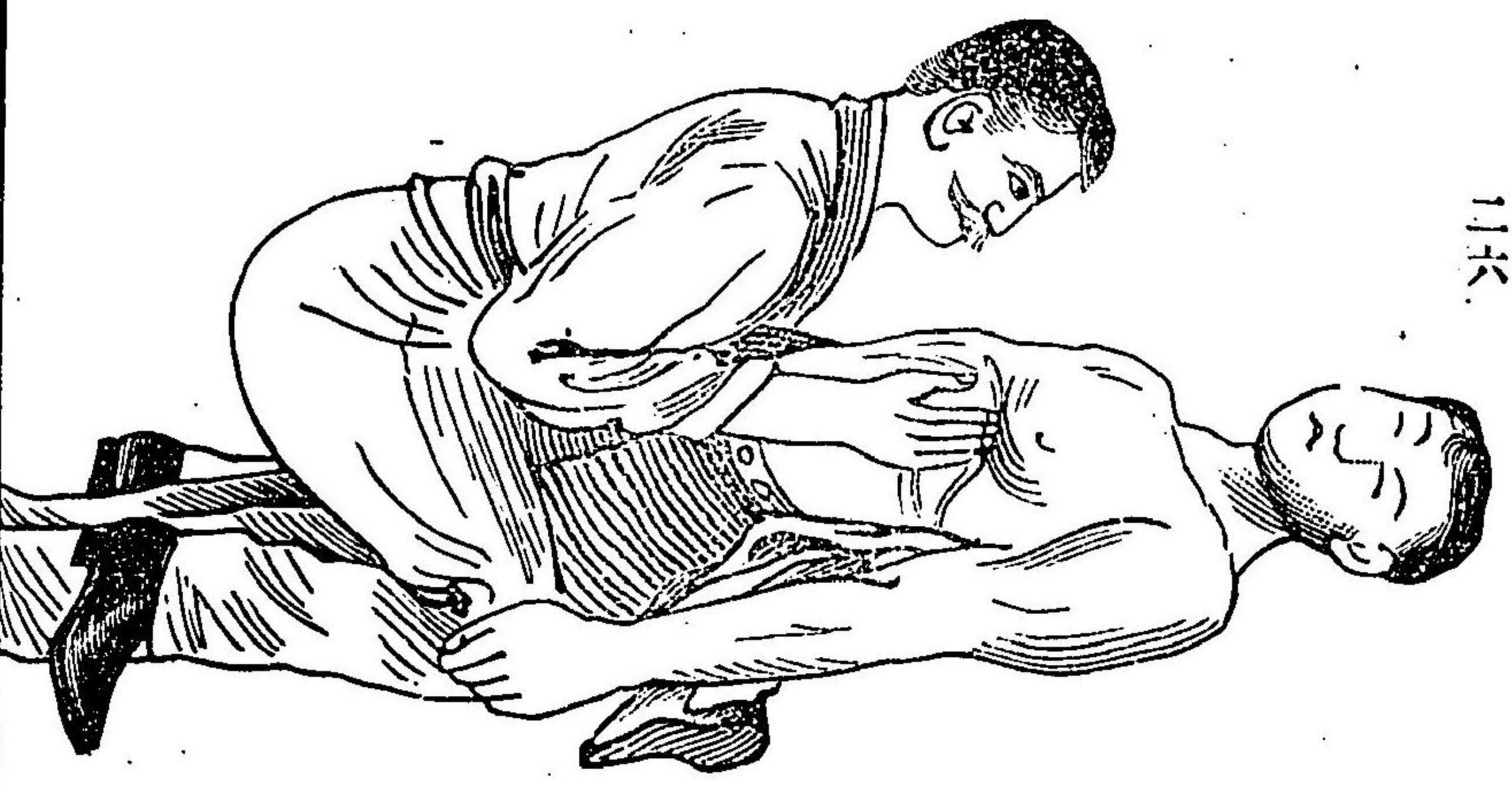
縊首者 デアツタラ、繩ヲ解イテ、靜カニ下シ、空氣ノ通りノ良イ所デ人工呼吸ヲ行フ。

(附) 人工呼吸法

人工呼吸法トハ、假死者ノ一時癱絶シタ呼吸機能ヲ喚起シ、自然ノ呼吸ヲ得シムル方法ガ、昔カラ行ハレタ柔道ノ活法デアル。此ノ方法ニ種々アルケレド、左ノ二法ハ其ノ重ナルモノデアル。

第一法 假死者ノ衣服ヲ脱ガセ、仰臥ノ位置ヲ取ラシメ、枕又ハ衣服ヲ丸メテ腰ノ下ニ入ル、術者ハ患者ノ上ニ跨リ、兩手ヲ開キテ兩側ノ乳房ノ下ニ當テ、充分ニ力ヲ入レテ胸部ヲ壓迫スル方法デ、一分間ニ十五回位反復シテ呼吸ノ發スルマ

第四圖



デ行フノデアル。長イ場合ニハ、一時間以上モヤツテ始メテ呼吸ノ恢復スルコトガアル。(第四圖第五圖)

第五圖

第二法 假死者ノ上半身ヲ裸出シテ仰ニ臥カセ、枕カ、衣服ノ丸メタモノヲ肩ノ下ニ入レ、頭ハ胸ヨリモ低クシ、兩手ヲ体ノ兩側ニ垂レサセ、舌ノ後ノ方ヘ引カレテ居ルキニハ、之レヲ前ノ方ニ引キ出シテ布片デ包ンデ助手ニ持ツテ居ラセル。術者



(二人デモ行ヘルケレド、モ二人ナレバ大ソウ樂デア

ル。患者ノ頭ノ後方ニ居ツテ、両手デ患者ノ兩肘ヲ握リ、之レヲ患者ノ頭ノ兩側ニ伸バシテ、其儘ニ保ツコトガ二秒位デ、充分ニ吸氣ヲサセ、次ニハ腕ヲ舊ノ位置ニ下シテ、胸側へ壓シ付ケルコトカ二秒位ス様ニシテ呼吸ヲ營マセル。之ヲ反覆シテ一時間位行フノデアアル。然シ此ノ方法ハ腕ヲ怪我シテ居ルモノニハ用ヒルコトガ出來ナイ。(第六圖第七圖)

第七 泥 醉

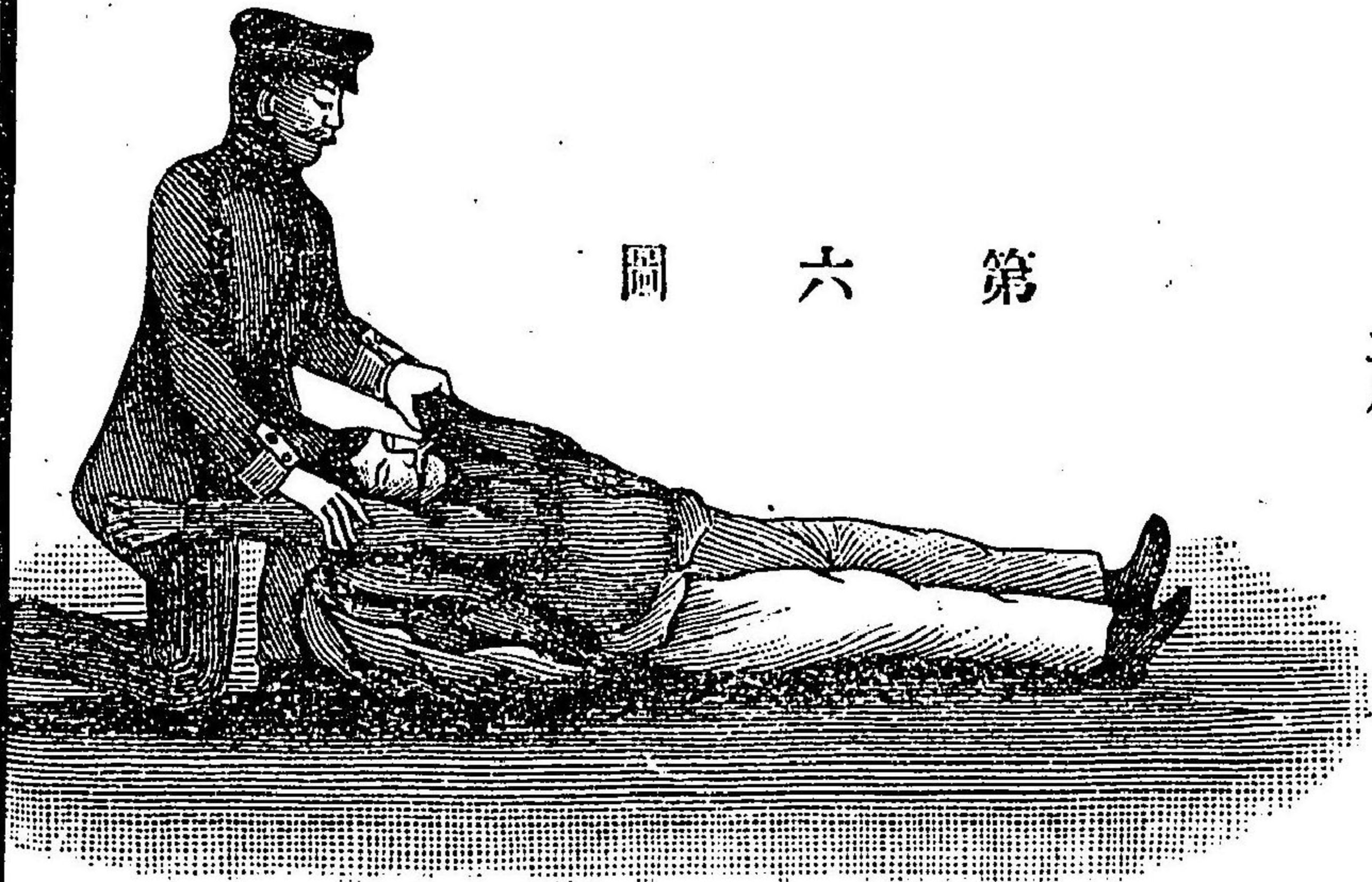
酒ヲ飲ミ過ギタ片ニハ顔ハ赤ク眼球モ赤クナツテ、呼吸ハ忙シクテ強イ酒ノ嗅

ヲ帶ビ、同時ニ烈シイ頭痛ガシテ、嘔吐ヲ催ス場合ガ多イ、尤モ烈シイ場合ニハ、精神ヲ失フ爲メニ、吐物ガ氣管ノ方ニ入ル恐レガアルカラ、患者ヲ横ニ臥カセテ酒氣ノ消失ルノヲ俟ツガヨイ、カ、ル際ニ多量ノ飲料ヲ與ヘテ吐カセル時ハ却ツテ酒氣ガ早ク去ル。又頭ヲ冷セバ頭痛ガ去リ、酒氣ガ消失ルモノデアアル。

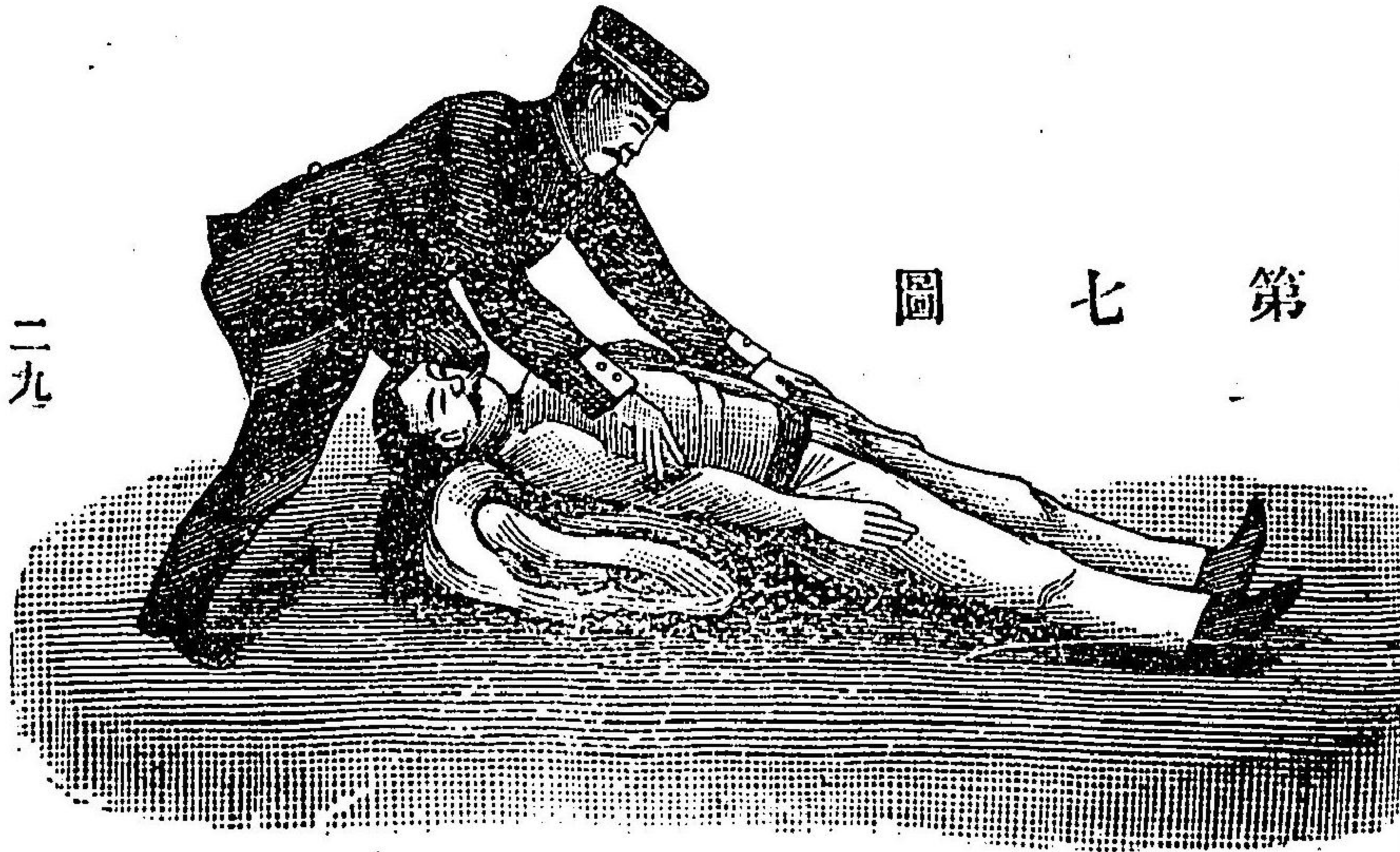
第八 高 熱

不意ノ熱發ニ際シテ、小兒ナドハ急ギ引キ付ケタリシテ、隨分素人ヲ驚カスモノデアアル。一体熱ト云フモノハ、何カノ原因

第六圖



第七圖



ガアアツテ來ルモノデアルカラ、熱丈ケ下ゲ様トシテモ中々下ラヌ
場合が多い。又素人ノ見付ケルコトノ出來ヌ惡イ原因ガアツテ來ル
モノガ多イカラ只單ニ熱ノミヲ下ゲ様トシテモ無理ナ事デアル。斯
ル際ニハ熱ノ爲メニ危険ヲ引キ起サヌ様ニ防クコトガ尤モ必要デ
アル。

斯ルルニハ先ヅ頭ニ氷嚢ヲ當テ、大便ガ結シテ居ツタナラハ灌腸シ
テ便ヲ出ス。決シテ無暗ニ下熱藥ヲ用ヒズニ醫師ノ診察ヲ受ケネバ
ラヌ。何レナレバ素人ガ見テ只單ニ熱ノミト思ツテ居ル場合ニ、猩紅
熱腸チフス、ジフテリヤ、麻疹、肺炎、マラリヤ「ナドニ懼ツテ居テ、忽ニシ
タ爲メニ、取り返シノ附カヌ重症ニ陥ラセルコトガアル。

第九 頭痛

頭痛ハ色々ノ原因デ起ルモノデ、眼ヤ鼻ガ惡クテモ起ル。又婦人ニハ

子宮ノ病氣ノアル爲メニ起ルコトガアル。又酒、煙草ノ過用、船ヤ、車ノ
酔ヒ、又ハ精神ノ過勞、睡眠ノ不足ナドニヨツテ起ル。又人ニヨツテ暖
イ風ノ吹クキニ頭痛ヲ覺エルコトガアル。

處置 頭痛ヲ起ス原因ガ分レバ、無論其ヲ除カネバナラヌ。一般ニハ
頭ヲ冷スガ良イ。又薄荷ヲ額ニツケテモヨイ。而シテ成ルベク靜カニ
寢カスガ良イ。病人ノ顔ノ赤イモノニハ頭ヲ高クシ、顔ノ青イモノニ
ハ低クスル。又顔ノ青イモノニハ珈琲又ハ葡萄酒ヲ飲マセルガヨイ。

第十 胃痛併ニ腸痛

此ノ痛ミハ神經質ノ人ニ起リ易ク、又夜間遅ク迄起キテ居ツテ冷エ
ル職業ノ人ニ起リ易イ。又食物ノ中毒ニヨリテ起ルコトガアル。此ノ
際痛ム所ヲ壓シテ痛ミノ和グコトガアルガ、又壓セバ却ツテ痛ミノ
増スコトガアル。何レノ場合ニモ差シ當リ懷爐又ハ「コンニヤク」湯ノ

中デ温メタモノヲ痛ム所ニ當テ、暖メルガ良イ。然シモウチヤウニフクマクエン盲腸炎、腹膜炎
 ナドニハ冷ス方ガ却ツテ良イ。然シ此等ノ診斷ハ醫師デナケレバ分
 ラヌ。而シテ便通ノナイモノニハ灌腸シテ通ジテ附ケ、尙夫レデ治ラ
 ヌ時ニハ健胃散ヲ飲マセル。然シ此ノ胃痛ヤ、腸痛ノ際ニモ、胃ノ潰瘍
 又ハ盲腸炎、腹膜炎ナドノ様ナ危険ノ病氣ガアツテ起ルモノガアル
 カラ、成ルベク素人療治ヲセズニ早ク醫師ニ見セルガヨイ。

第十一 神經痛

之ハ種々ノ原因デ起ルガ、最モ多ク起ルノハ、坐骨神經痛、股ノ後ノ正
 中線ヲ走ル神經、肋間神經痛、肋骨ノ間ヲ走ル神經デアル。神經痛ノ起
 ツタキニハ、一般ニ温メルガ良イ。又芥子泥ヲ貼ツテモ良イ。然シ此ノ
 病氣ハ中々込ミ入ツラ居ツテ、素人療治ハ危険デアルカラ、醫師ノ治
 療ヲ受ケルガ安全デアル。

第十二 齒痛

齒ニ空洞ガ出來テ痛ムモノト、空洞ガナクテ痛ムノトアル。完全ナ處
 置ハ齒科醫デナケレバ出來ヌケレモ、一時痛ミヲ止メルニハ「カンフ
 ル」錠ヲ碎イテ附ケレバ良イ。然シ「カンフル」ハ齒ニ有害デアルカラ永
 ク用ヒテハナラヌ。

第十三 鼻出血(衄血)

鼻出血ガ起ツタラ、襟卷ナドハ早く取り外シ、衣服ヲ弛クシ、頭ヲ高ク
 シテ仰臥ニシ、咽頭ニ流れ入ル血液ヲ吐キ出サセ、頭ニ濕レ、手拭カ氷
 嚢ヲ當テ、脫脂綿カ昇汞「ガトゼ」デ鼻ノ中へ栓ヲスル。此ノ際深く入レ
 ルコトカ肝要デアルカラ、中へ落ち込マス爲メニ糸ヲ附ケテ置クガ
 良イ。サウスレバ後デ引き出スニモ便利デアル。

第十四 略 血

之レハ肺カラ血ノ出ルノデ、其際咳セキガ出テ、其血ノ色ハ鮮紅色デア
肺ノ病氣ノアル人ガ劇シク運動ヲシテ起ルコトガ多イ。又重症ノ肺
病患者ニハ静カニシテ居ツテモ起ルコトガアル。

處置 頭ヲ高クシ、絶對ニ安靜ニ臥サシメ、精神ノ興奮セヌ様ニ慰安
ヲ與ヘ、胸ニハ氷嚢ヲ當テ、珈琲匙ニ一杯位ノ食鹽ヲ水ニ溶カシテ飲
マセル。又「ゲラチン」之レハ西洋料理ニ用ヒルモノデ、西洋食品ヲ賣ル
店又ハ藥種店ニアル。ヲ溶カシテ飲マセル。何レノ場合ニモ、熱イモノ
ヲ與ヘルコトハ禁物デアツテ、藥デモ食物デモ皆冷シデ與ヘネナラ
ヌ。

第十五 吐 血

吐血ハ胃ノ病氣殊ニ胃潰瘍、胃癌ニ起リ、又ハ中毒ニヨリテモ起ル。吐
血ハ嘔吐ニヨツテ起ルノデアアル。此際咯血ト間違ヘルコトガアルケ

レ、略血ハ大抵咳ト共ニ來リ鮮紅色デ泡沫ヲ混ズルガ、吐血ハ黒味
ヲ持ツテ嘔吐ニヨツテ起ル。多クハ食物ノ殘片ヲ混ジテ居ル。

處置 静カニ臥カシ、胃部ニ氷嚢ヲ當テ、冷イ流動物ノ外與ヘテハナ
ラヌ。

(注意) 鼻血ヲ飲ミ込コンダノヲ吐キ出シタモノヲ、吐血ト思ヒ違ヘ
ルコトガアル。

第十六 食 傷(急性胃答兒)

食物ノ不攝生ニヨリテ起ル。例ヘバ、腐敗シタ食物、酒類ノ飲ミ過ギ、又
ハ暴食、蟹、茸、魚類ノ中毒等ニヨツテモ起ルモノデ胃ノ部分ニ痛ミヲ
覺エ、吐キ氣ガアル。或ハ直グニ飲食物ヲ吐ク。夫レト同時ニ頭痛ムカツキ暖氣
手足ノ倦怠ダルヲ覺エ、又時トシテハ熱發スル。

處置 身体ヲ静カニシ、尙食物ノ胃中ニ殘ツテ居ル片ニハ、薄イ微温

ノ鹽水ヲ多量ニ飲マセ、次イテ咽頭^ドへ指ヲ入レテ吐キ出ダサセル。而シテ胃ノ部ニ芥子泥ヲ貼リ、健胃散ヲ飲マセル。吐キ氣ノ尙強イキニハ重曹一匙、薄荷少量、砂糖適宜ヲ「コツプ」ニ一杯ノ水ニ溶カシテ飲マセル。而シテ尙氣分が直ラナカツタラ醫師ニ見テ貰フガ良イ。

第十七 下

痢(急性腸加答兒)

食物ノ不攝生ニヨリテ起ル。例へバ、暴食、不消化物、余リニ冷キモノ、(水水ノ如キ)腐敗セルモノ、未熟ノ果物、不良ノ麥酒、サイダー、ラムネ等ニヨリテ腹部^{ハラガハラ}電鳴シ、不快ノ感ジガシテ、痛ミヲ覺エ下痢ヲ起シ、次イテ便通ハ頑々ト起リ、口ガ渴キ、手足ガ倦怠^{ダルク}クナリ、嘔吐ヲ催シテ來ル。重症ニハ手足が冷却シ、額ニハ冷汗^{ヒヤアセ}ヲ流ス様ニナル。置處 輕症ニハ、初メノ半日位ハ少シモ食物ヲ與へズニ、只少量ノ茶位ヲ與へテ置ケバ、大抵ハ便通ノ度數ガ減リ、又ハ全クナクナル。而シ

テ其内ニ食慾ガ出タナラバ、少量ノ葛湯ヲ與へ、滿一日位ノ後ニ便通ガナク、腹痛モナケレバ極ク軟カナ粥ノ少量ヲ與へル。尙工合^{グアヒ}ガ良カツタラ、次ノ日位カラ普通ノ飯ノ軟カイノヲ與へル。重症ノモノハ到底初メヨリ醫治ヲ乞ハネバナラヌケレバ、之レトテモ初メカラ食物ヲ與へヌ方が得策デアル。

第十八 中 毒

中毒ト云ツテモ中々範圍ガ廣イ。而シテ、近來ハ工業ノ進歩ト共ニ、種々ノ藥品ガ應用サレル様ニナリ、從ツテ中毒ヲ起スコトモ多クナツテ居ル。然シ毒藥デモ其量ガ少ケレバ害ハナイガ、毒性ノ弱イモノデモ多量ニ体内ニ入レバ甚ダ危険デアル。夫レデ中毒ヲ起シタ片ニハ如何ナル處置ヲ取ルベキカト云フニ、其起シタモノ及其方法ニヨツテ違フ、先ツ。

内服 ニヨツテ起ス中毒ハ「モルヒネ」亞砒酸、重クロム酸加里、昇汞ナドデアル。斯ル際ニハ成ル可ク早ク醫師ヲ迎フベキハ勿論デアルガ先ヅ毒物ヲ速ニ排除スル目的デ、微温湯ニ油又ハ牛乳ヲ混ジテ多量ニ飲マセ、^(磷)又ハ芫菁ノ中毒ニハ油ハ用ヒテハナラヌ^(指カ鳥ノ羽)デ咽頭ヲ笑痒ツテ嘔吐ヲ起サセル。若シ容体ガ重症デ危険ノ場合ニハ人工呼吸ヲ行ヒ、氣が付イタラ「カンフル」錠ヲ二三箇モ飲マセル。次ニ外用 ニテ中毒ヲ起ス場合ハ、石炭酸水ヲ造ラウトシテ手ニ注キ、又ハ硫酸、硝酸、鹽酸ナドヲ手ニ觸レタキニハ、石鹼水、牛乳、重曹水、食鹽水ナドデ洗フ。而シテ爛レタ部分ニハ硼酸軟膏ヲ塗ツテ綑帶スル。

瓦斯ノ中毒 ニハ点火瓦斯(近時用ヒラル)、アセチリン「瓦斯ノ如キ」ノ中毒ト、鑛山又ハ古井戸ナドノ瓦斯ノ中毒トガアル。烈シイ場合ニハ、氣絶シテ居ツテ、顔色ハ赤ク、眼モ亦赤イ。一層烈シク時ニハ、顔色が

紫色ヲ呈シテ居ル。何レノ場合ニモ、患者ヲ早ク新鮮ナル空氣中ニ出ス事ガ專一デアアル。而シテ人工呼吸ヲ行ツテ呼吸ノ恢復ヲ計ラネバナラヌ。

食物ノ中毒 尤モ普通ナルハ鯉、蟹、エビ、茸ノ毒デアアル。斯ル際ニハ烈シイ苦痛ヲ起スモノデアツテ、中々危険ナモノデアアル。素人療治ハ六ケ敷イカラ、早ク醫師ヲ頼ムカヨイ。醫師ノ來ル迄ハ吐物ヲ保存シ、尙周圍ニ食ヒ殘リノモノガアツタラ保存シテ置クガヨイ。

第十九 昆蟲刺傷

單ニ蚊、蜂ニ刺サレ、又ハ蛇ニ咬マレタモノニハ、其場所ヲ吸ヒ出シテ「アンニモア」水ヲ附ケ、其部ヲ冷スガヨイ。若シ屍体又ハ病獸ノ身体ニ附着シタルモノニ刺サレ、或ハ毒蛇ニ咬マレタ時ニハ、其部ガ直チニ腫脹シ、高熱ヲ發スルコトガアル。然ルキハ直ニ醫師ノ治療ヲ乞フベ

キハ勿論ナルモ、醫師ノ來ル迄ノ間ハ、ゴム管又ハ紐デ傷ノ上部ヲ固ク縛リ口又ハ吸角^{スヒフクベ}デ傷口ヲ吸フガ良イ。

第二十異物

眼、鼻、耳ナドニ異物ノ入ルコトガアル。而シテ異物ノ入ツタ爲メニ、身体ニ非常ナ害ヲ與ヘル場合ト、左程デナイ場合トガアル。然シ捨テ置ケバ害ニナルカラ、成ルベク早く取ル方良イ然シ咽頭^{イノトウ}、喉頭^{コウトウ}、氣管^{キクワン}、食道^{シヨクドウ}ナドノ異物ハ、到底素人ニハ取ルコトハ出來ヌ故、初メカラ専門ノ醫師ニ頼ムガヨイ。

鼻ノ異物 ハ小兒ニ多ク、且ツ前方カラ入ルモノガ多イ。然シ又嘔吐^{ハク}、咳嗽^{セキ}ニヨリ奥ノ方カラ來ルコトモアル。外カラ入ルモノハ豆、木ノ實、小石、「コルク」ナドデアアル。鼻ノ異物ヲ除ク輕便ナ法ハ、鼻ノ中へ紙燃リヲ入レテ、噴嚏^{クサ}ヲサセレバ異物ガ飛ビ出スコトガアル。又差支ノナ

イ鼻ノ孔カラ水ヲ入レルキハ、異物ノアル鼻孔ノ後ノ方カラ、水ガ入ツテ、水ト共ニ異物ガ流レ出スコトガアル。此等ノ方法デ奏効シナイ場合ニハ醫師ニ見テ貰フガ良イ。

耳ノ異物 ハ中々多イ。釘^{ボタン}、木ノ實、豆チドカ入ルコトガアル。余ノ實見シタモノニハ晩ニ假眠^{ウタネ}ヲシテ居ツタラ、生キタ油虫カ耳ノ中ニ入ツテ、一夜中動イテ居ツテ眠レナカッタモノガアル。又小兒ガイタツラニ紙ナドヲ入レルコトガアル。又耳ノ垢ガ溜ツテ、漸々堅クナツテ石ノ様ニナツタ爲メニ、耳ノ聞エナクナルコトガアル。耳ノ異物ヲ出スニハ尤モ簡單ナノハ「スポイト」デ洗ヒ出スノデアアル。此際余リニ強イカデ水ヲ入レルキハ、耳ノ鼓膜ヲ破ルコトガアルカラ注意シナクテハナラヌ。又入口ニアル異物ヲ取ラウトシテ、「ピンセット」ナドデ挾ンデ却ツテ中へ入レルコトガアルカラ、取レ惡イモノハ余リ素人療治

ヲセヌガヨイ。虫ナドノ入ツタ場合ニハ、耳ノ中へ湯ヲ入レ、耳ノ孔ヲ塞ヘテ頭ヲ振レバ、虫ガ死ンデ出テ來ル。眼ノ異物、眼ノ中ニ入ツタモノハ、眼瞼ノ内面ノ膜ノ中ニ入ルカラ一寸取レ惡イ。且ツ眼ノ球ヲ傷ケルコトガアルカラ、素人療治ハ危險デアアル。眼ニ異物ノ入ツタキハ、余リ摩ラズニ眼瞼ヲ反シテ見ルト、大抵ハ在ル所ガ分ル。其在ル所ヲ見出シタナラバ、ガーゼカ脫脂綿デ拭ヒ取ルカ、又ハ紙燃リノ先キへ附ケテ取ルガヨイ。

第二十一 火 傷

火傷ハ火焰、熱湯、熱蒸氣、燒ケ火箸又ハ強キ酸類(硫酸、硝酸、鹽酸)ナドニヨリテ起ル。火傷ヲ三通リニ區別スル。

第一度ノ火傷 ハ赤クナツテズキズキ痛ムモノ。

第二度ノ火傷 ハ赤クナツテ所々ニ大小ノ水泡ガアツテ、水泡中ニ

ハ透明ナ液ノアルモノ。

第三度ノ火傷 ハ熱ノ作用ノ強イ爲メニ、一部分ガ死ンデ痂皮ガ出來又ハ潰瘍ヲ生ジ、進ンデ筋肉骨ヲモ犯スモノデアアル。

火傷ハ例へ輕度ノモノデモ、場面ノ廣イモノハ生命上ニ危險ヲ來タシ、重イモノデモ場面ガ狭ケレバ單ニ其局部ノ損害ダケニ止ルモノデアアル。

處置 火傷ニ對シテハ、兎角色々ノ賣藥ナドヲ塗ルコトガアルガ、夫レガ爲メニ、却ツテ醫師ノ治療ノ妨ゲヲナスコトガ多イ。

第一度ノモノハ冷水ニテ冷シ、硼酸軟膏ヲ塗ツテ置ケバヨイ。

第二度ノモノハ硼酸水ニテ洗ヒ、針ヲ火デ燒イテ消毒スルカ、又ハ石炭酸水ノ中ニ二十分計モ浸ケテ置イテ、夫レデ水泡ヲ刺シテ液ヲ漏ラシ、其上ニ硼酸軟膏ヲ塗ツテ「ガーゼ」ヲ當テ縛帶スル。然シ到底夫レ

丈ケデハ満足スルコトハ出来ナイカラ醫師ノ診察ヲ乞フガ安全デア
 アル。
 第三度ノモノハ到底素人療治ハ危険デアアル。直グニ醫師ノ診察ヲ受
 クベキハ勿論ナルモ、夫レ迄ハ成ルベク清潔ニ取扱ツテ置カネバナ
 ラス。

第二十二 凍 傷

凍傷ハ寒冷ノ爲メニ起ル。其損傷ノ状態ニヨリ火傷ノ如ク三通ニ區
 別ルル。

第一度ノモノハ始メニ皮膚が白クナリ、次イデ赤青色トナル。搔痒、灼
 熱ノ感ガ起ル。冬時ニ耳、手、足ノ先キニ來ル霜燒ハ之レデアアル。

第二度ノモノハ水泡ヲ生ジ、其中ニ血漿ヲ含ム。

第三度ノモノハ痂皮ヲ生ズル。烈シイ凍傷ノ場合ニハ、其局部ノ障害

ノミデナク、呼吸ノ障害ガ起リ、脉搏ハ小サクナル。此際呼吸ヲ良クシ
 心臓ヲ強クシテヤラヌト死ンデシマウ。此場合ニハ、患者ヲ冷イ室ニ
 連レ來タリ、人工呼吸ヲ行フ。呼吸ト脉搏トガ良クナツタラ、葡萄酒又
 ハ「カンフル」錠ヲ與ヘ、温イ湯ニ入レル。而シテ湯ノ温度ヲ追々ニ高ク
 シテ、普通吾々ノ入ル湯位ノ温度ニスル。

輕度ノ凍傷ハ雪ヤ氷デ擦ルガヨイ。又アルコールノ罨法モ効ガアル
 「イヒチオール」軟膏ヲ塗ツテ繃帶シテモヨイ。

豫防法 トシテハ血行ヲ良クスルノガ第一デアアル。夫レ故ニ營養ヲ
 良クスル爲メニ、冬期ニハ肉類ヲ多ク用ヒ、且ツ多量ノ暖カナ飲料(茶
 珈琲)ヲ用ヒ、適當ノ運動ヲスル事ガ必要デアアル。身体中デ凍傷ニ罹リ
 易イノハ、耳、鼻、手、足ノ先キデアアルカラ、毎年凍傷ニ罹ル人ハ、嚴寒ノ候
 外出スルニハ、毛皮カ毛絲製ノモノデ十分ニ包ムガヨイ。

人ハ何時誤ツテ怪我ヲモエヌトモ限ラヌ。一寸物ヲ切ラウトシテ指ヲ切ルコトガアル。又物ヲ洗ツテ居ツテ木片竹片ナドヲ刺スコトモアル。又倒レテ手ヤ足ヲ擦リ剝リコトモアル。自轉車ニ突キ當タラレ、又ハ人ト人ト衝突シテモ怪我ヲスルコトガアル。又大キナ刃物デ大キク切ツタ場合ナドニ、放置スレバ多重ノ血液ヲ失ツテ生命ニ危険ヲ及ボスコトガナイトモ限ラヌ。又溝ノ中デ踏ミ抜キヲシ、又ハ泥イヂリヲシテ、木ヤ竹ノ片ヲ手指テヤ趾アシノニ刺シテ場合ニハ、夫レガ爲メニ破傷風ノ如キ恐ル可キ疾病ヲ起スコトガアルカラ、何人モ一通リノ應急ノ手當ヲ知ツテ置ク必要ガアル。

擦過傷(すりむき)之レニハ克ク清潔ニ拭ヒ取り、特ニ砂ナドノ附着シテ居ル時ニハ、硼酸水ニテ克ク洗ヒ、昇汞ガ「ゼ」ヲ當テ、又ハ硼酸軟膏ヲ塗ツテ「ガ」ゼ「ヲ」當テ、繃帶スレバヨイ。

打撲 上カラ物ガ落ちて頭ヲ打チ、又ハ人ト人トガ突キ當ツテモ起ル。其場所ハ腫レテ瘡ウケガ出來ル。斯ル際ニハ冷水デ冷シ「イヒチオール」軟膏ヲ塗ツテ繃帶シテ置ケバ三四日位デ療ル。

刺創 之レハ細イモノヲ刺シタ時ニ起ル。例ヘバ錐キデ突イタリ、又ハ細イ小刀ノ先キデ突イタリ、時トシテハ跣足アシノウラデ歩イテ足躓ニ釘ヤ竹片ヲ刺スコトガアル。又小兒ガ川ナドデ泳イテ木片ナドヲ刺スコトモアル。時トシテ洗ヒモノヲシテ居ツテ、知ラズニ爪ノ間ヘ木片ナドヲ刺スコトガアル。此レ等ノ場合ハ其刺シタモノガ極メテ清潔ナラバ害ハナイガ、多クハ清潔デナイ。且ツ切り創ト異ツテ直グニ口ガ塞ルカラ、入ツタ毒物ハ流れ去ルコトガ出來ヌ故、一層危険デアアル。彼ノ恐ル可キ破傷風ノ如キハ、此ノ刺創ノ際ニ多ク起ルノデアアル。若シ其

入ツタモノが取レタ際ニハ、創口ヲ洗ツテ壓シテ充分ニ血ヲ出シ、石炭酸水デ充分ニ洗フガヨイ。然シ此ノ場合ニハ刺シタ物ヲ抜キ出スト同時ニ、創口ガ塞リ充分ニ中マデ洗フ事が出来ナイカラ、一應醫師ニ見テ貰フ必要ガアル。況シテ刺シタモノが取レヌ時ニハ尙更ラデアル。

切創 小刀デ切ルトカ、庖丁デ切ルトカ、スベテ及ノ附イタモノデ切ラル、場合ニ起ル時トシテハ鈍体デ打タレテモ切創ヲ生ズルコトガアル。之レハ骨ガ皮膚ノ直グ下ニアル場所ニ起ルノデアアル。何レノ場合ニモ皮膚ハ開イテ多少ノ出血ガアル。其創ノ深イ場合ニハ、同時ニ筋肉、骨ナドモ切ラル、コトガアル。而シテ創ノ深イ時ニハ血管モ同時ニ切ラレル故多量ノ出血ガアル。

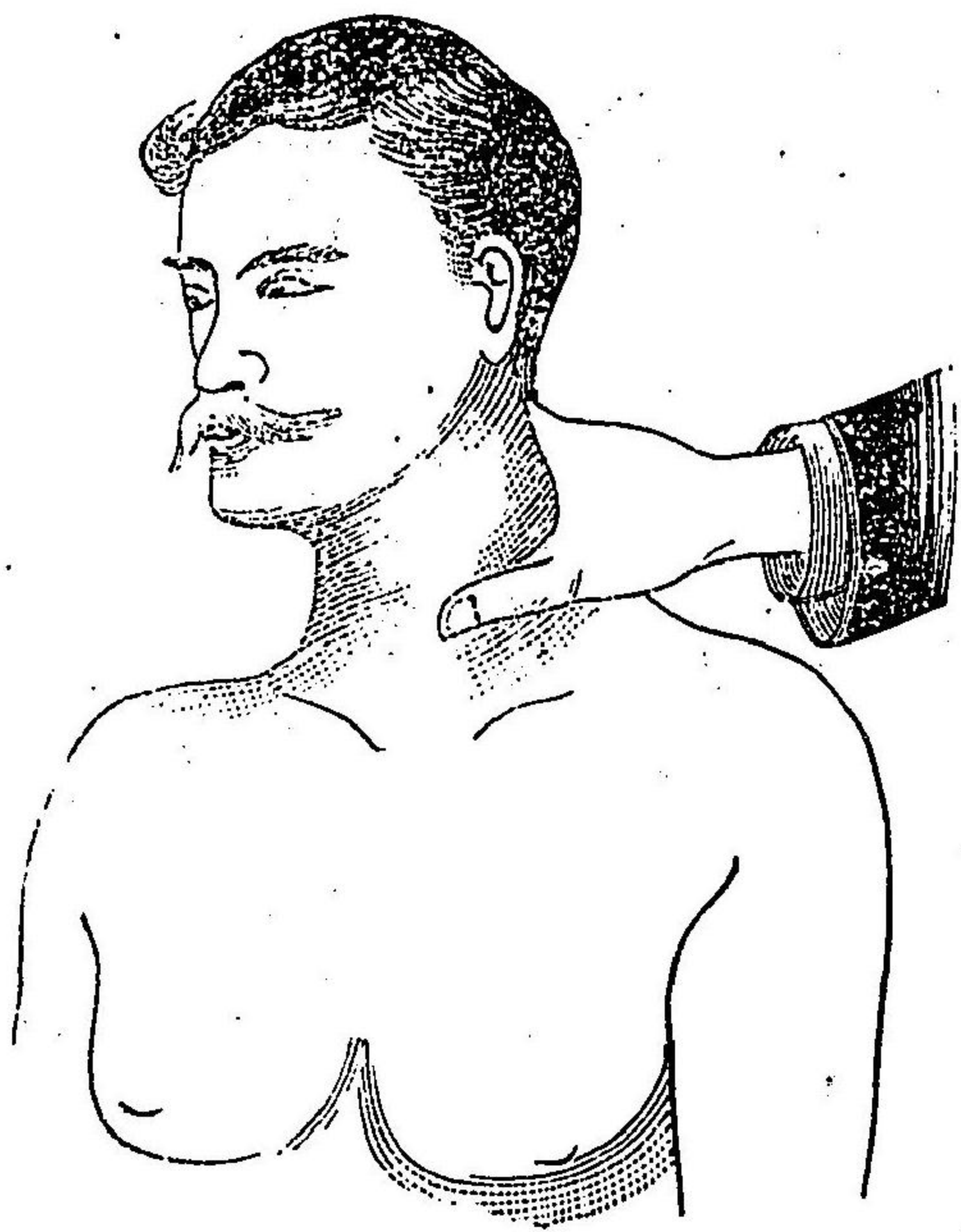
處置 出血シテ居ル時ハ、成ルベク早ク出血ヲ止メネバナラヌ。僅カノ創デ出血ノ少ナイモノハ、昇汞「ガーゼ」ヲ當テ、堅ク繃帶シテ置ケバ、大抵ハ止血シ創口モ塞ガル。又創面ノ不潔ノ場合ニハ、洗ツテ清潔ニセネバナラヌ。夫レニハ殺菌水(湯ガ沸立ツテカラ、畧二十分以上煮沸シタモノヲ冷却シテ用ヒル)デ洗滌スルカ、又ハ食鹽水(之レハ千分ノ水ニ七分ノ割合ニ、食鹽ヲ溶解シテ煮沸シテ後冷却シタモノ)デ洗ツテモヨイ。又豫メ造ツテアル硼酸水ヲ用ヒルモ良イ。清洗シタ後ハ昇汞「ガーゼ」ヲ當テ、繃帶スル。又創面ニ血痂チカノ附イテ居ルモノハ、成ルベク剝カサズニ其上ニ昇汞「ガーゼ」ヲ當テ、繃帶スル。創口ヨリ出血ノ烈シイモノハ次ニ述ベル止血法ニヨツテ止血シタル後、創部ニハ昇汞「ガーゼ」ヲ當テ、繃帶スル。

附、止血法

切創ニハ必ラズ血管ヲ傷ケラル、カラ、多少ノ出血ヲ來サヌモノハ

ナイ。而シテ出血ハ血管ノ種類ニヨリ出血ノ模様ガ異リ、其及ボス危
 害モ異ルカラ、素人ニテモ出血ノ模様ヲ見テ如何ナル血管ヨリ出血
 スルカラ判知シ、直チニ應急ノ止血法ヲ施シ、危急ヲ救フコトガ出來
 ル。創面ノ全体カラ平等ニ血液ノダラ／＼出ルモノハ、毛細管ノ出血
 デアツテ、之レハ捨テ置イテモ暫時ニシテ止ルケレド、鼻衄ガ一ゼヲ
 當テ、壓迫スルカ、又ハ堅ク繃帶シテ置ケバ間モナク止血スル。暗赤
 色ノ血液ガ線狀ヲナシテ緩ク流レルモノ、又ハ線狀ヲナサ、ルモ緩
 急ナク絶エズ流出シ、創ノ上部ヲ壓迫スレバ其流出スル勢ガ強クナ
 リ、下部ヲ壓迫スレバ勢ノ弱クナルモノハ、靜脈出血デアアル。鮮紅色ノ
 血流ガ線狀ヲナシテ噴射シ、緩急アリテ心動ニ從ヒテ衝突狀ヲナシ
 創ノ上部ヲ壓迫スレバ其勢ノ弱クナルモノハ、動脈出血デアアル。動脈
 出血ハ例ヘ其血管小ナルモ、其出ル量ハ多イカラ注意セネバナラヌ

靜脈出血ニハ若シ創ノ上部ガ衣服又ハ紐ナドヲ緊縛セラレテ居ッ
 タ場合ニハ直チニ弛メ、創ノ處ヲ高クシ鼻衄ガ一ゼヲ創口ニ當テ、

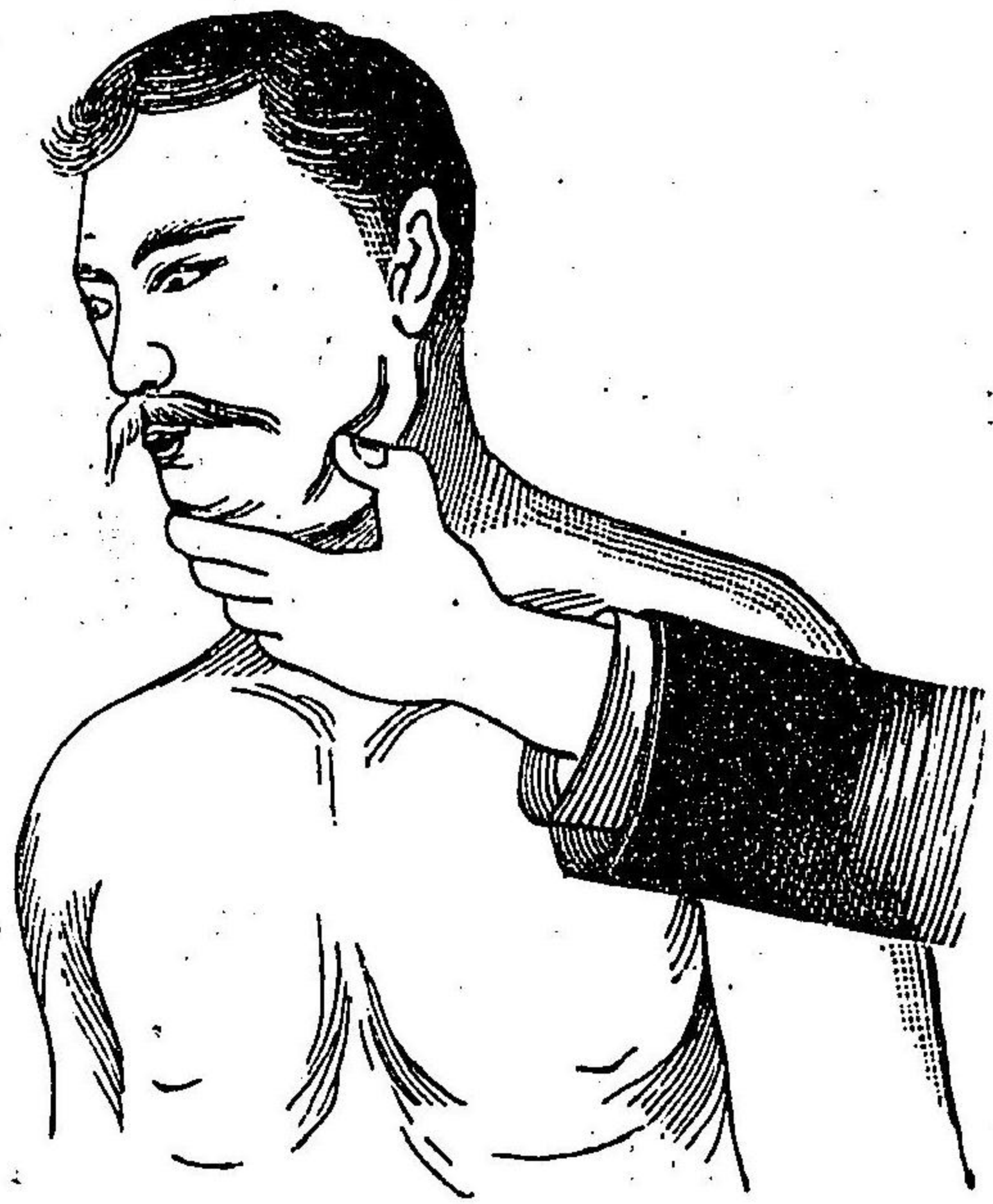


第八圖

繃帶ヲ堅クスル。夫レデモ出血
 ガ止マナカツタラ醫師ノ手ヲ
 借ラネバナラヌ。動脈出血ハ頗
 ル危険デアアル。而シテ容易ニ止
 ラヌモノデアアルガ、是亦創口ニ
 鼻衄ガ一ゼヲ當テ、壓迫スル
 ガ良イケレド、到底夫レ丈ケデ
 ハ止ラヌカラ醫師ノ手當ヲ乞

ハネバナラヌ。然シ醫師ノ手ニ渡ス迄放置スレバ甚ダ危険デアアルカ
 ラ、應急ノ處置ヲ取ラネバナラヌ。故ニ以下二三ノ方法ヲ述べ様ト思

一、壓迫法 止血法中尤モ簡單ナモノデ前ニ度々述べタ方法デアル



第九圖

之レヲ行フニハ清洗シタル指
デ創口ヲ壓迫スル。然シ此ノ方
法ハ長時間ヲ要スルキハ術者
ハ疲勞シ、且ツ傷者ヲ運搬スル
場合ニハ用ヒルコトガ出來ナ
イ。

二、栓塞法 之レヲ行フニハ創
ノ周圍ニアル衣服ヲ解キ去リ

鼻丞ガーゼヲ創口ニ詰メ込ム而シテ其上ニ堅ク繃帶スル。夫レデモ
尙出血ノ止マナイ時ニハ創ノ上部デ動脈ノ幹ヲ壓迫セネバナラヌ



第十圖

三、血管壓迫法 イ頭面部ノ出血ニハ頸動脈ヲ壓迫スル。之レヲ行
フニハ第八圖ニ示ス如ク、氣
管ト胸鎖乳嘴筋(耳ノ後ヨリ
首ノ前面下部ニ向ツテ走ル
筋デ、頭ヲ横ニ向ケル時ハ隆
起スル)ノ間ニ於テ充分ニ後
内方ニ向ツテ壓迫スル。此ノ
際指頭ヲ内方ニ向ケルキハ
氣管ヲ壓迫シテ窒息セシム
ルコトガアルカラ注意シナ
クテハナラヌ。

口、口唇及其附近ノ出血ニハ、下顎ノ角(下顎骨ハ左右ノ耳ノ下ニテ鈍

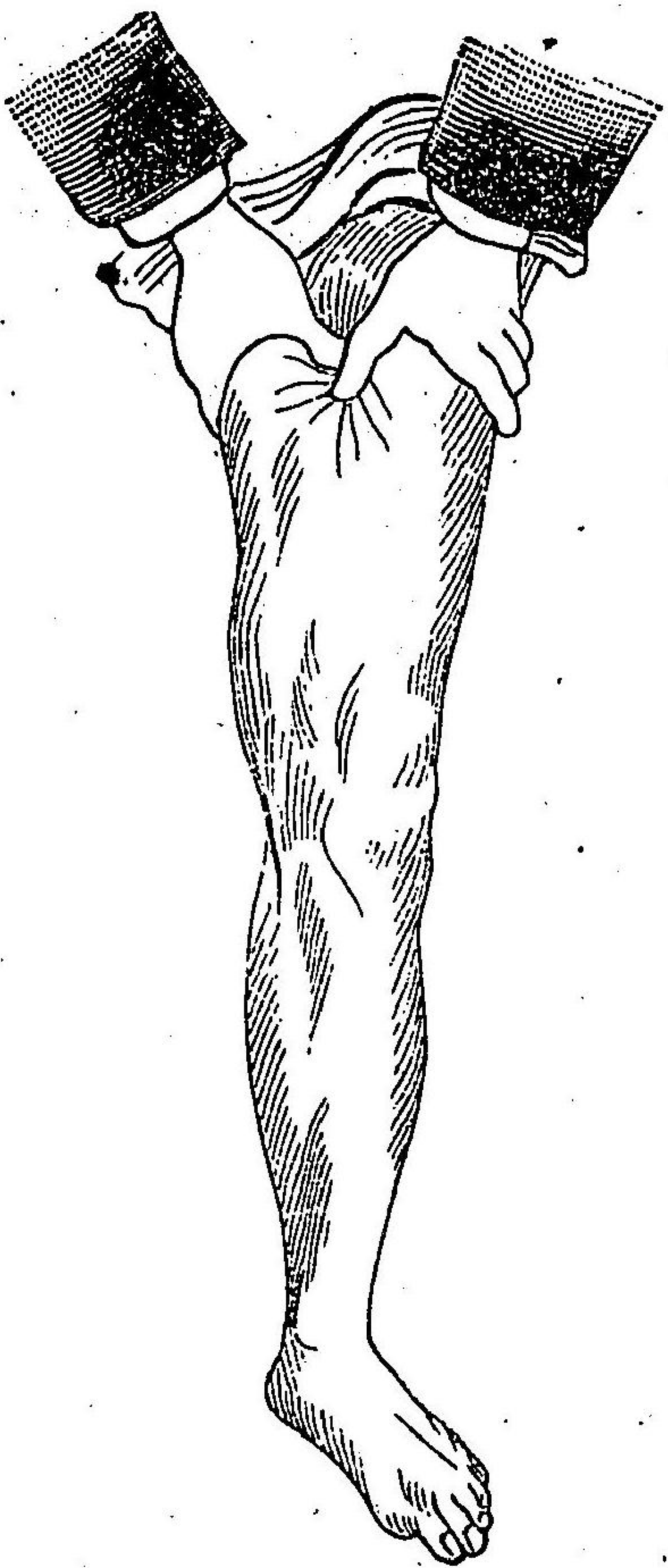
角ヲナス。之レヲ下顎角ト云フ。ノ少シ前ノ處デ壓迫スルノデアアル。(第九圖)



ニ、前搏及手腕ノ出血ニハ肘關節ノ稍上方内面ノ淺溝ヲナス部ヲ壓迫スルカ又ハ上搏ノ下部ヲゴム管デ縛ルモ良イ。(第十一圖)

第十圖
ハ、腋窩及上膊ノ出血ニハ鎖骨ノ上窩(胸ノ丸モ上方ニ左右ニ同様ニ横ニ現ハレタ骨ガアル。此ノ骨ノ上一ハ大抵ノ人ニハ少シ凹ンデ居ル)ニ於テ指頭ヲ以テ下方へ強ク壓迫スルノデアアル。(第十圖)

ホ、下肢ノ出血ニハ鼠蹊(腰ノ兩側ニハ骨ノ凸出シタ所ガアル、ソレト陰部トノ間ヲ鼠蹊ト云フ)ノ中央ヲ下方骨ニ向ツテ股動脈ヲ壓迫スルノデアアル。(第十



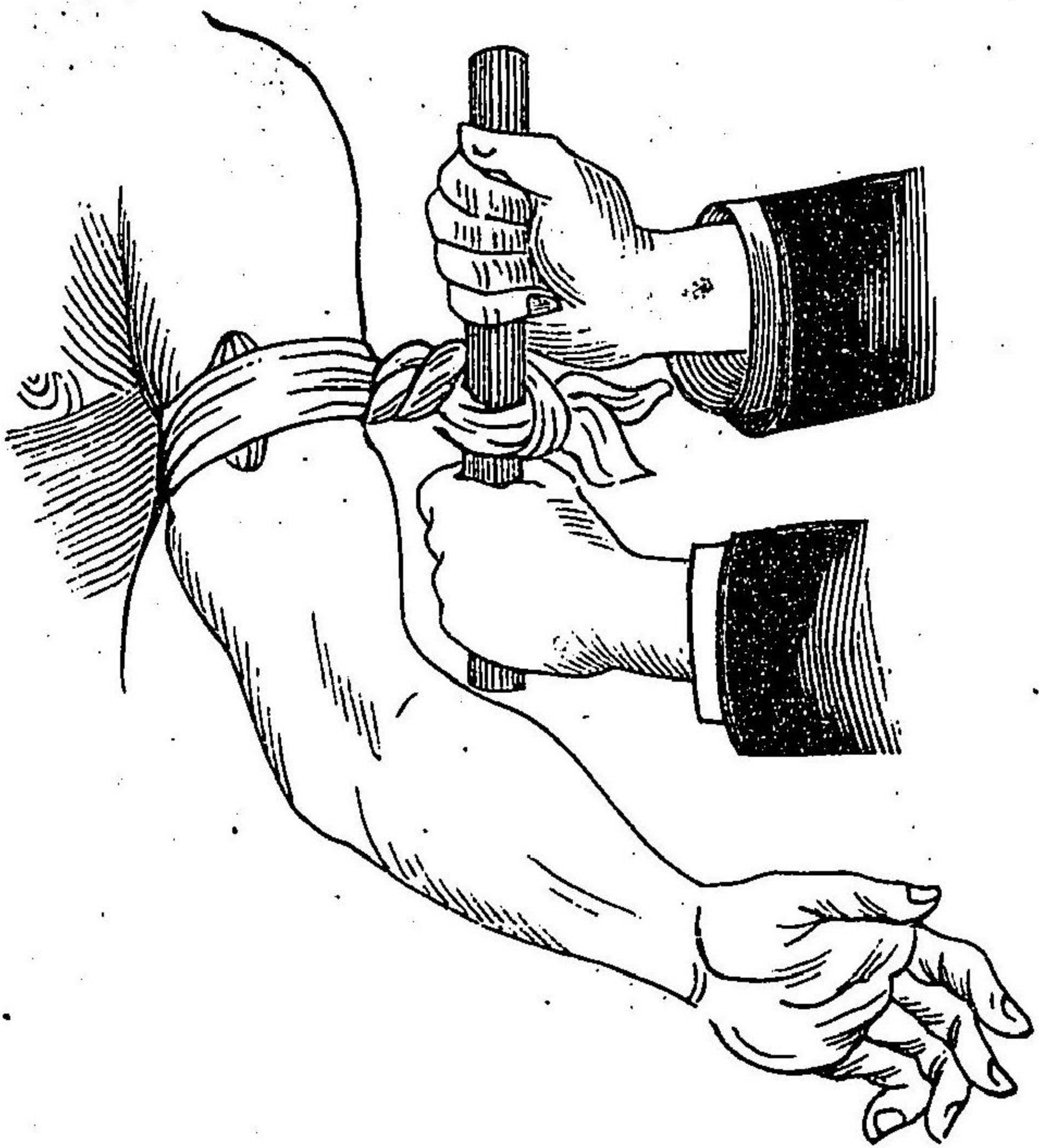
第二十圖
傷者ヲ醫師ノ許ニ運搬スルニ當ツテ、尤モ便利ナノハ壓迫繃帶デアアル。夫レハ布片

デ創ノ上部ヲ緊縛シ、又ハ彈力性ノ紐(ツボン)吊リノ如キ)ゴム管等デ縛ルモヨイ又ハ動脈上ニ繃帶ノ卷イタ儘ノモノ、或ハ疊ミタル「ガ」ビラ當テ、手拭カ繃帶デ弛ク縛リ、反對ノ側ニ細イ棒ヲ通シ數回廻

轉スレバ極ク固ク壓迫スルコトガ出來ル。第十三圖第十四圖然シ此ノ壓迫法ハ二時間以上ニナルルハ、壓迫セラレヌ以下ノ部分ノ血行ヲ障害シテ脱疽ダツソウヲ起スコトガアルカラ注意セテバナラヌ。

第二十四 關節捻挫

之レハ下駄ヲぐらすトカ、角カヲ取ツテ逆ニスルトカ、關節ノ捻ヂラレタ時ニ起ル此ノ場合ニハ皮ノ下ニ血カ

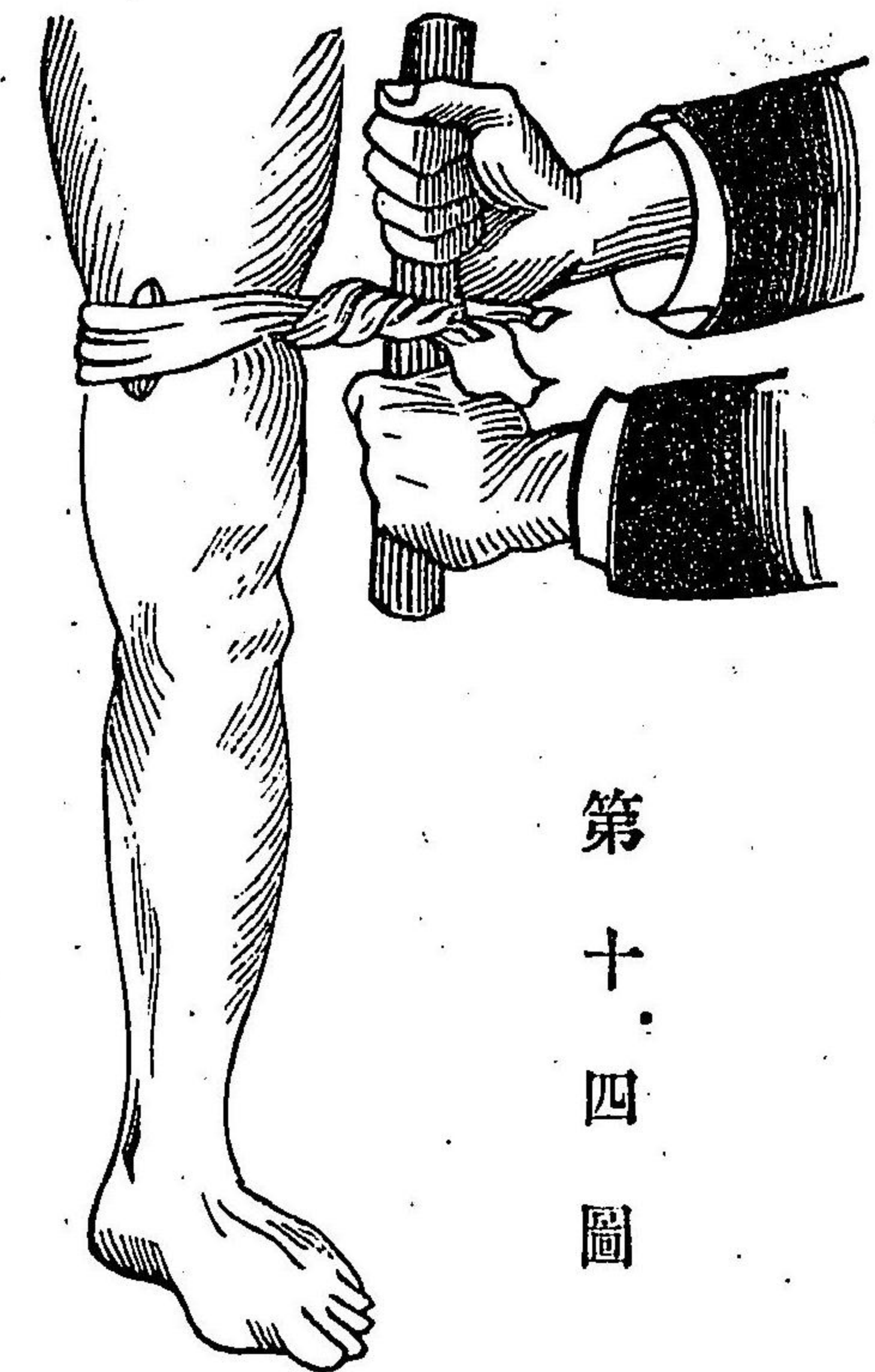


溢ム故種レテ痛ムノト、運動ノ障害トガアル。

處置 患肢ヲ病床ノ上ニ安置シ「イヒチオール」軟膏ヲ塗り、薄油紙ヲ當テ、縋帶スル、長ク癒ラナイモノニハ化膿ノ虞レガアルカラ醫治ヲ乞ハネバナラヌ。

第二十五 脱 臼

第十四圖



脱臼トハ關節ヲ組立テ、ル骨ガ尋常ノ位置ヲ變シテ直ニ元ノ位置ニ復ラヌモノテアツテ、此ノ際ニハ一方ノ骨端ハ他ノ側ノ骨ノ前後又ハ側方ニ來テ關節ノ形ハ變ルノデアアル、而シテ關節ノ運動ハ困難トナリ、痛ガアツテ、腫レガ來ル。此ノ脱臼ノ診斷ハ往々困難ノコトガアルカラ、速カニ醫治ヲ乞ヒテ正

復ヲ計ラネバナラヌ。而シテ患部ハ安靜ニシ、無理ニ動ス様ノコトヲシテハナラヌ。

第二十六骨 折

骨折ハ外來ノ暴力ノ爲メニ骨ノ破折スルモノデ、單純骨折ト、複雑骨折ト、二種ガアル。

單純骨折 トハ皮膚ハ傷ガナクテ、只骨ノミノ折レタ場合デアアル。

複雑骨折 トハ皮ヤ肉モ共ニ破レルモノデ、多少創口カラ汚物ガ入ツテ多クノ困難デアアル、爲メニ、多クノ場合ニ化膿ヲ起シ易イカラ、之レヲ取扱フニハ極メテ注意シナクテハナラヌ。

骨折ヲ起シタキニハ、如何シテ之レヲ知ルカト云フニ、

- 一、病肢ノ短縮(之レハ脱臼ニモ來ル)及屈曲。
- 二、關節以外ノ部分デ屈曲スル。

三、骨折部ヲ動かセバ一種ノ摩擦音ヲ聞ク。

四、病肢ヲ動かセバ烈シイ痛ミガアル。

處置 救護者ハ良ク其部ノ状態ニ注意シ、單純骨折ニテ骨端ノ皮下ニ突出セルモノハ、更ラニ皮膚ヲ破ラヌ様ニ注意スル。又運搬スル片ニハ、假リニ適當ノ繃帶ヲ施シテ、其部分ヲ動かサヌ様ニスル爲メニ副木ヲ用ヘル。而シテ副木ニハ一定ノモノガアルケレモ、急ニ臨ンデハ菓子折、板片、衣紋竹、蝠蝠傘等ヲ用ヒテ宜シイ。然シ其長サハ傷部ノ上下ニアル關節ヨリ一二寸許超過スルヲ法トスル。又副木ヲ用ヒルニ際シテ、其下ニハ綿、座布團、衣服等ヲ當テ、壓迫ヲ防ガネバナラヌ。繃帶ヲ施スニ際シテハ、注意シテ骨折端ノ摩^{コス}レヌ様ニシ、且ツ骨折端ノ再ヒ轉位セヌ様ニ注意セネバナラヌ。

複雑骨折ニハ皮膚ノ傷ニ對シテハ、一般ノ創傷ト同様ニ處置シ、次イ

テ單純骨折ノ處置ヲ行ヒ成ルベク速カニ醫治ヲ乞ハネバナラヌ。

六〇

明治四十四年九月五日印刷
明治四十四年九月十日發行

正價金三拾錢

製複許不

著者 千葉縣千葉町千葉院内九百六十二番地 内田實

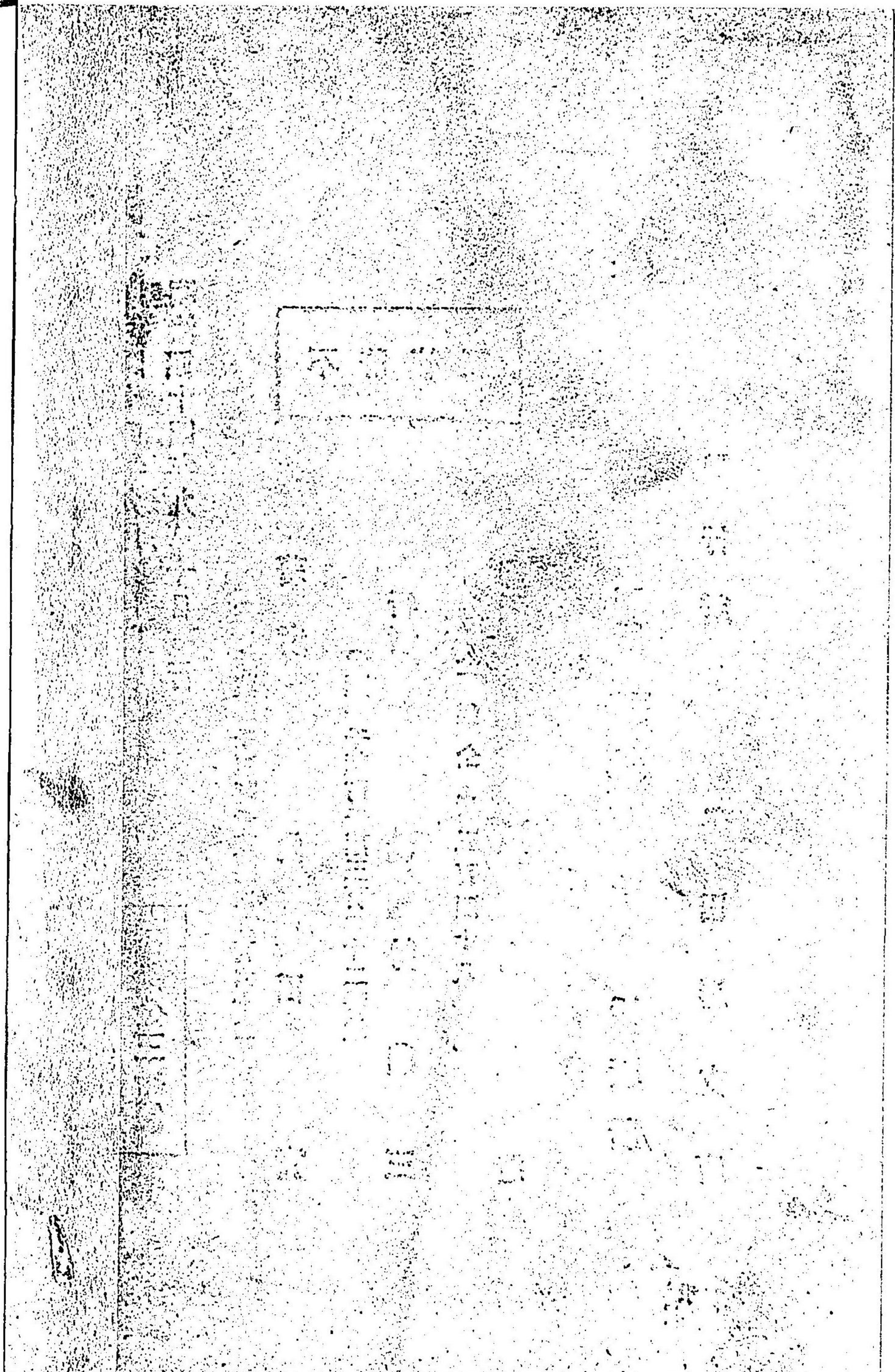
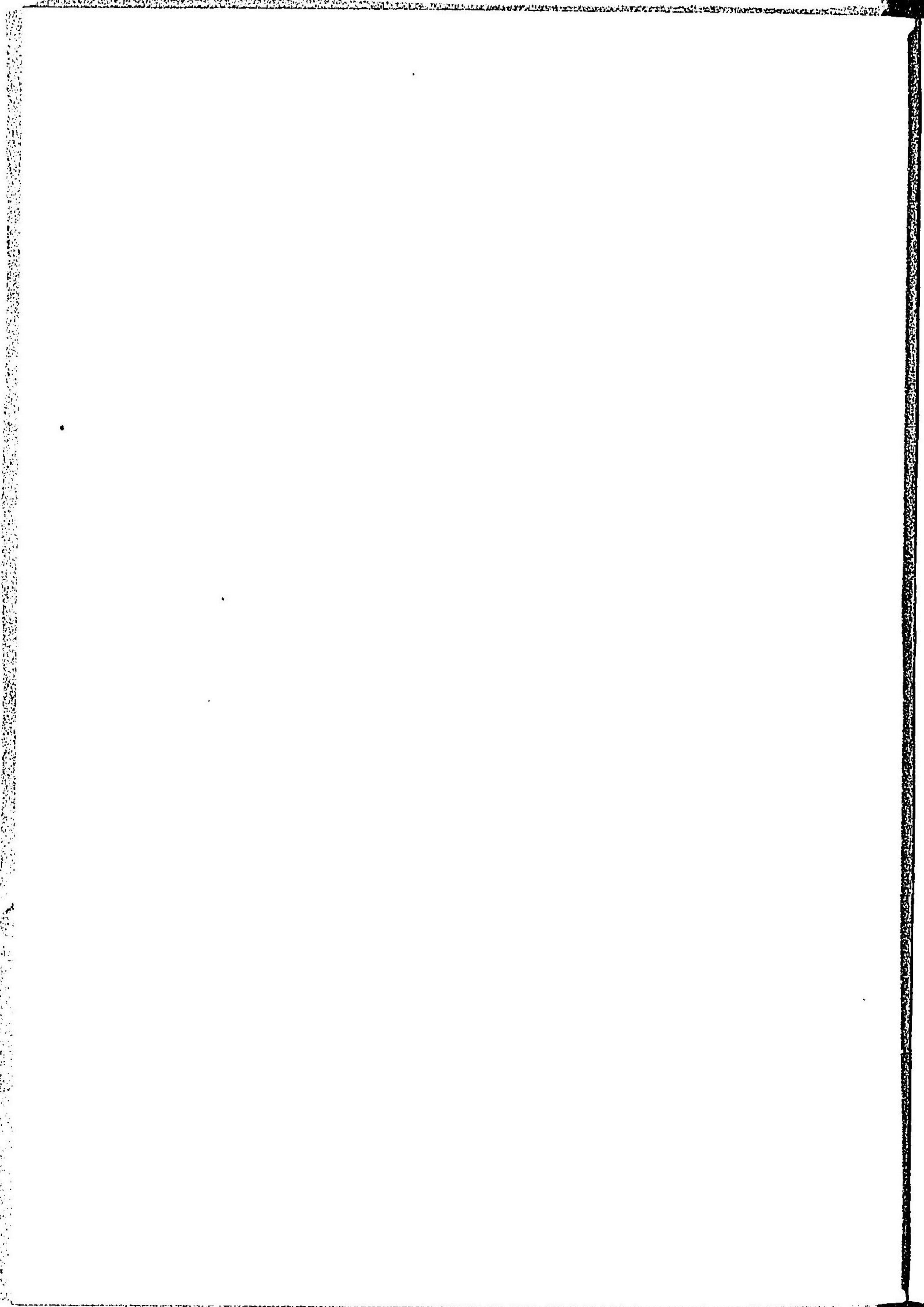
發行者 千葉縣千葉町千葉五百二十二番地 能勢鼎三

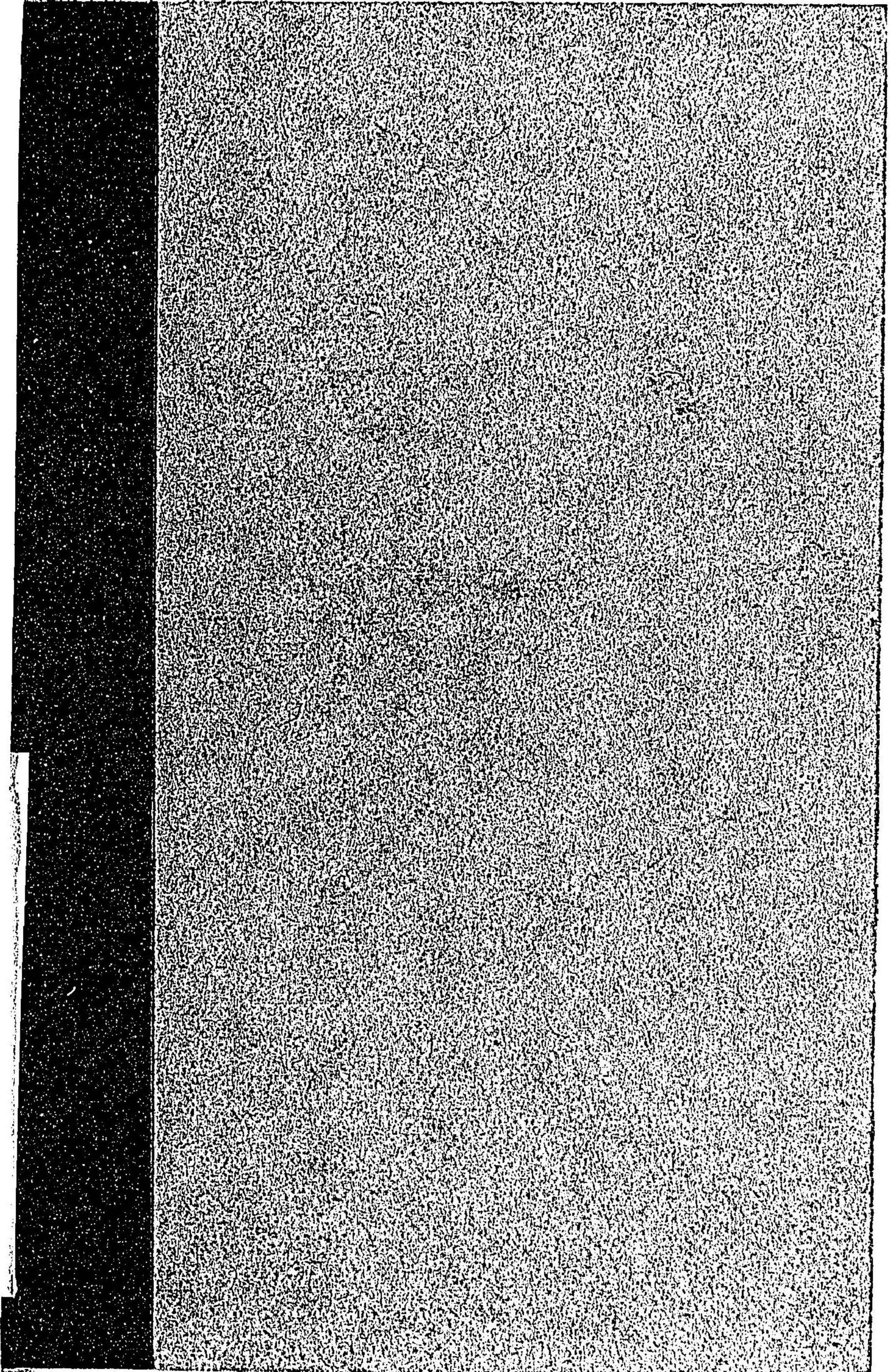
印刷者 全縣全所五百四十八番地 岩倉順造

印刷所 多田屋 千葉活版所
印刷工場

發行所 多田屋支店







特5

125

一般救急法

内田 実

国立国会図書館

058494-000-1

特53-125

一般救急法

内田 実/著

M44

CBC-0007

